

平成18年度 卒業論文

トルコのメディアと財閥

—2002年の構図—

指導教官 新井政美

南西アジア課程トルコ語科

学籍番号 8501167

山口 南

はじめに	p.3
1章 新聞メディアの概要	p.4
1. 概要	
2. 売上部数	
2章 現在のメディアの構造 ——財閥との関連	p.6
1. ドアン財閥 (Doğan Holding)	
(1) 概要	
(2) ドアン財閥の成長	
2. メディア財閥 (Medya Holding)	
3. ジネル・グループ (パーク財閥 ; Park)	
4. チュクロヴァ財閥 (Çukurova Holding)	
(1) 概要	
(2) パムックバンク破綻	
(3) 破綻経緯の報道	
(4) 現在の状況	
5. ルメリ財閥 (Rumeli Holding)	
(1) 概要	
(2) 政界進出	
(3) グループ崩壊	
6. ドウシュ財閥 (Doğuş Holding)	
7. ウルジャック一族 (Ilicaklar)	
3章 宗教・思想との関連性	p30
1. 概要	
2. イフラス財閥 (İhlas Holding)	
3. フェトフッラー・ギュレン主義 (フェトフッラージュ)	
4. アルバイラック・グループ	
5. ジュムフリエット紙	
4章 全体としてのメディアの構図	p36
1. 企業規模	
2. 販売会社での提携	
5章 選挙との関係	p.40
1. 2002年総選挙前の状況	
2. 各紙の報道	
おわりに	p.47

はじめに

インターネットで新聞を読める時代である現在、日本にすむ私達がトルコを見る窓口になるのはやはり新聞であろう。

しかし、その窓から見える景色は果たして、トルコそのものなのか、どうか。窓ガラスがきれいに磨かれていれば景色は良く見え、ガラス自体が歪んでいれば景色も曲がって見える。今回この卒業論文を書くことで、歪みをはかるものさしとなるものを一物差しになるかわからないが一少しでも、提示できればいいと思う。

現在のトルコのメディアは、特に、2002年のメディアの状況は、おそらくトルコ史上最大の企業による独占状態であったといってもいいだろう。2002年には3つの企業団体によって市場がほぼ独占される形となった。また、メディアを所有する「企業」は、すでに1970年代頃からただの企業ではなくなり、建築、金融、工業、観光、はたまた政治まで、あらゆる世界に進出する財閥の状態となっていた。

また2002年当時はメディアの独占を規制する法律もなく、メディアの独占は、問題ではあったものの、実際は常に政界とも持ちつ持たれつの関係であったことになる。

本稿の目的は、現在のトルコにおける新聞・テレビがどのような要因、もしくは権力によって影響を受けているのか、という問題を少しでも明らかにすることである。独占といっても、いったいどういう独占が起こっているのか。メディアの世界で独占が起こることは、政治や社会にどのような影響をもたらしているのだろうか。

トルコで新聞を読むにあたって、どういった姿勢で臨むべきかという問題について、今回はその中でも、特に2002年前後に絞って、発行物の所有者の関係を調べていく形で近づくこととした。

2002年のトルコはイラク戦争問題があり、7月から11月にかけては総選挙が待っているという、先の読めない怒涛の1年間であった。

そのような1年間を読み取っていくにあたって、いったいどの新聞を、どうやって読めばいいのだろうか。

本稿では、トルコのメディア所有者達が、いったい何者で、何を目的にメディアを所有しているのかということ、2002年を中心として、2005年現在までの最新の状況までを調べていくことにする。

1 章

1. 新聞メディアの概要

トルコの新聞は地方紙と全国紙に分類できるが、本論では地方紙にはふれず、主に全国紙を分析していく。

首相府出版放送情報局によれば、全国紙は総新聞流通量の約90%を占めており、『ジュムフリエット (Cumhuriyet)』紙以外はカラーで印刷されているという。¹

同局が全国紙として挙げるのは以下の35紙である。

Anadolu'da Vakit, Akşam, Birgün, Cumhuriyet, Dünya, Dünden Bugüne Tercüman (現在名称を Bugün に変更²), Ekonomik Çözüm, Fanatik, Gözcü, Gözlem, Güneş, Halka ve Olaylara Tercüman, Hürriyet, Hürses, Milli Gazete, Milliyet, Ortadoğu, Önce Vatan, Pas Fotomaç, Posta, Radikal, Referans, Sabah, Star, Takvim, Tasvir, Turkish Daily News, The New Anatolian, Türkiye, Ülkede Özgür Gündem, Vatan, Yeni Asya, Yeni Çağ, Yeni Şafak, Zaman

2. 売上部数

売上部数のデータに関しては、2004年に新聞雑誌部数公査機構 (Audit Bureau of Circulation、以下 ABC とする) のトルコ支部である売上部数監視委員会 (Türkiye Tiraj Denetleme Kurulu) が出来、トルコで初めての独立した発行部数監視機関となった。それまでは新聞販売会社であるヤイサット (Yay-sat; Yayın Satış Pazarlama ve Dağıtım A.Ş.) や総合出版物流通 (Birleşik Basın Dağıtım、以下 BBD とする) より発表される数値が売上部数とされていたが、一企業であるそれらの会社による数値が本当に公正なものかどうかは疑問視されていた³。後に詳しく述べるが、これらの販売会社は財閥に属しており、新聞を発行する会社そのものとも繋がりがあがあるためである。

よって売上部数の数値は本来であれば前述の ABC から入手すべきであるが、今回は手に入らなかったため代替として総理府放送出版局ホームページより引用する。

総理府放送出版総局のホームページ上にあるレポートでは2005年6月の全国紙売上は以下の通りである。

¹ 総理府出版放送情報局, “Turkish Press 2005” <http://www.byegm.gov.tr/REFERENCES/TURKISHPRESS2005.htm>
2005年11月1日ダウンロード

² 2005年9月6日に名称変更。元々 Dünden Bugüne Tercüman 紙は Mehmet Ali Ilıcak のものであったが Turgay Ciner による買収で名称を変更すると同時に、編集長も Behiç Kılıç から元 YeniŞafak 紙の Selahattin Sadıkoğlu に代わった。 (<http://www.parkgroup.com.tr/tr/gnews051.htm>) 2005年11月1日ダウンロード

³ “Tirajlara uluslararası denetim geliyor”, *Zaman*, 10.12.2004
<http://www.zaman.com.tr/?bl=ekonomi&trh=20041210&hn=119968>

表 1

新聞名	売上	値段(2005年7月)
	2005年6月	
Posta	629901	25 Ykr
Hürriyet	510837	35 Ykr
Zaman	510023	35 Ykr
Sabah	434495	25 Ykr
Milliyet	295340	25 Ykr
Takvim	288026	25 Ykr
Vatan	280414	25 Ykr
Akşam	237320	25 Ykr
Türkiye	211007	30 Ykr
Güneş	139747	20 Ykr
Gözcü	136343	20 Ykr
yeni şafak	111586	35 Ykr
Dünden Bugüne Tercüman(Bugün)	110625	15 Ykr
Star	100531	25 Ykr
Cumhuriyet	57659	50 Ykr
Halka ve Olaylara Tercüman	42843	15 Ykr
Radikal	41396	40 Ykr
Dünya	25877	60 Ykr
Milli gazette	21468	40 Ykr
H.G.Birgün	13935	50 Ykr
Yeni Asya	11798	40 Ykr
Ortadoğu	10473	30 Ykr
Hürses	3051	10 Ykr

(出所) 総理府出版放送情報局, “Turkish Press 2005” より筆者作成、値段は筆者調査⁴。

⁴ 表1のランキングには、本来ならランキングに入っているだろうはずのファナティック紙 (Fanatik) が入っていない

2章 現在のメディアの構造 ——財閥との関連

トルコのメディアを左右する要因のひとつとして、財閥、実業家との関係があげられる。一説によると実業家が新聞所有者になる傾向が始まったのは1948年以降であり、それまでは新聞所有者は同時に記者であったという (Topuz:329)。また1970年代からカラー印刷などの印刷技術も発展し、1980年以降、記者でない実業家が新聞の所有者になるという傾向は特に顕著になった (Tokgöz:39)。父セダト・シマーヴィ (Sedat Simavi) が1948年5月1日に創刊したヒュリエット紙 (Hürriyet) を引継ぎ、またギュナイドゥン紙 (1968年11月26日-) を出版していたエロル・シマーヴィ (Erol Simavi) ・ハルドゥン・シマーヴィ (Haldun Simavi) 兄弟や、1982年にギュネシュ紙 (Güneş) で出版業界に進出したオメル・チャブシュオウル (Ömer Çavuşoğlu) とアフメット・コザンオウル (Ahmet Kozanoğlu)、後に政界に進出したメフメット・アリ・ユルマズ (Mehmet Ali Yılmaz)、1988年7月5日にギュナイドゥン紙を買収したアシル・ナディル (Asil Nadir)⁵ など、多くの実業家が新聞を所有しては、また新たな新聞所有者に買い取られるという歴史が繰り返された (Sagnak:55-72)。

例え同じ名前の新聞でも、時期によっては所有する実業家は異なり得るということ、また記者の引き抜きや移籍も頻繁に行われ、報道の傾向もその都度変わりえるということに注意したい。

4章で選挙とメディアの関係を論ずるにあたって、この章では2002年11月に行われた総選挙の際に新聞出版、テレビ、ラジオのメディア業界で権力を持っていたグループを紹介する。

1. ドアン財閥 (Doğan Holding)⁶

(1) 概要

所有者はアイドゥン・ドアン (Aydın Doğan)。財閥の構造としては大元のドアン・シルケットレル・グルブ・ホールディング (Doğan Şirketler Grubu Holding A.Ş.) がグループ各社の持ち株会社となっており、その下にドアングループ内メディア部門を仕切るドアン放送出版ホールディング (Doğan Yayın Holding A.Ş.) があるという形になっている。2004年の経営レポートによると、Doğan Şirketler Grubu Holding A.Ş. が所有するドアン放送出版ホールディ

⁵ キプロス出身の実業家アシル・ナディル (Asil Nadir) はメフメット・アリ・ユルマズからギュネシュ紙、ハルドゥン・シマーヴィからギュナイドゥン紙、エルジャン・アルックル (Ercan Arıklı) から Gelişim Yayın グループを購入し、突如当時最大のメディアグループ所有者となった (Tokgöz:42)。ほどなくしてアシル・ナディルの所有する英国ポリール・ペック・インターナショナルがロンドン証券取引所の上場企業であったにも関わらず1990年9月20日に急激に株価暴落、倒産し、ナディルの株価操作や不透明な経営内容が問題となって所有するメディア各社も売却された。

⁶ 戦前の日本の「財閥」のように、トルコでも持株会社 (holding) を中核として多角的経営を行う独占的な巨大グループのことを本論では財閥と呼ぶことにする。トルコ語では「財閥」にあたる言葉はなく、単に「グループ (grup)」と呼ばれている。

ングの株式は66.57%を占める⁷。ドアン放送出版ホールディングが2005年の時点で所有する新聞メディアは、Hürriyet, Milliyet, Radikal, Posta, Fanatik, Fanatik Basket, Gözcü, Referance (Financial Forumを改名), Turkish Daily Newsの9紙⁸。表1の売上にて計算すると、同グループの合計売上部数は全体の38.19%を占める。ただし、表1にはFanatik, Fanatik Basket, Turkish Daily Newsが抜けているため、本当の割合はこれより大きいものと考えられる。ドアンメディアグループは年間広告収入のうち38-43%を常に占めており、出版部門は全体の43%、テレビ部門では22-23%を占めているという(Sönmez:138)。

なお、同財閥がレポートに記載する各紙の持つ特色やターゲット層を以下に挙げる。⁹

- ・ヒュリエット (Hürriyet) 出版開始は Sedat Simavi により 1948 年 5 月 1 日。1971 年に Erol Simavi に所有が移るが、94 年 6 月には Hürriyet Holding の株式の半分をアイドゥン・ドアンが購入 (Sağnak : 66)、ドアン財閥傘下に入る。25Ykr。
- ・ミリエット (Milliyet) 高学歴者・各界のオピニオンリーダーを読者対象、1950 年 5 月 3 日 Ali Naci Karacan によって出版開始、1979 年にアイドゥン・ドアンにより同財閥に所有される。25Ykr。
- ・ラディカル (Radikal) 高学歴・都心在住読者を読者に狙い、現代的でインテリの記者の記事を掲載とのこと¹⁰。40Ykr。1996 年 10 月 13 日創刊。
- ・ポスタ (Posta) 都市・農村、男女などの区別なく親しまれ、値段も安く簡単に読むことが出来る紙面で広範囲の読者層の獲得を目指す大衆紙。25Ykr。1995 年 1 月 23 日創刊。
- ・ファナティック (Fanatik) スポーツ新聞、1995 年創刊。25Ykr。
- ・ギョズジュ (Gözcü) 安い値段でかつ興味をそそる記事を掲載する大衆紙、1996 年 5 月 15 日創刊。20Ykr。
- ・レフェランス (Referance) 経済紙。フィナンシャル・フォーラム紙 (Financial Forum) の後継紙にあたる。55Ykr。2004 年 5 月 31 日創刊。
- ・ターキッシュ・デイリー・ニュース (Turkish Daily News) 英字新聞。1960 年出版開始。2001 年にドアン財閥傘下に入った。1.25 リラ。

また同財閥が所有するテレビ局はカナル D (Kanal D ; 1993 年 12 月 19 日) ,CNN トルコ (CNNTürk) ,ヨーロッパ在住のトルコ人向けのユーロ D (EuroD)、ケーブルテレビは DreamTV , FenerbahçeTV, BeşiktaşTV、ラジオ局は RadioD, CNN Türk Radio, Radio Foreks, HürFM である。また、コチ財閥との共同運営ではあるが、複数のケーブルテレビ

⁷ “Doğan Yayın Holding A.Ş.2004 yılı Faaliyet Raporu” , p13

⁸ “Doğan Holding Annual Report 2004”

⁹ 創刊日時は首相府出版放送情報局、紙面特徴・対象読者層は Doğan Holding Annual Report 2004、Doğan Holding ホームページを参照した。

¹⁰ ラディカル紙の売上は高くはないが (表 1 参照)、筆者が 2004 年-2005 年にかけて在学していたボアジチ大学では、講義で参照されることもあり、多くの学生が購読していた印象がある。

チャンネル視聴サービスのウルトラ・ケーブルTV (Ultra Kablo TV) もある。

販売会社としては新聞販売のヤイサット、音楽や本の販売のD&Rがある。印刷はドアン・プリンティング・センター (Doğan Printing Center) , ドアン・オフセット (Doğan Ofset) が受け持つ構造となっている。またニュース配信会社としてドアン・ハベル・アジヤンス (Doğan Haber Ajansı ; DHA)、番組制作や映画配給にANS インターナショナル、インターネットプロバイダのドアン・オンライン (DOL、プロバイダ名はe-kolay.net)、出版では雑誌出版のDoğan Burda Dergi (元 Hürküç ve AD Yayıncılık ; 2000年2月に改名)、Doğan Egmont (デンマークのEgmont International と提携、児童書出版)、本の出版にDoğan Kitapがある。雑誌出版であるDoğan Burda Dergi Yayıncılık ve Pazarlama A.Ş.の出版する雑誌¹¹は2005年11月現在、PC NET, Art Decor, Elle Decor, Maison Française, Auto Show, Blue Jean, Hey Girl, Tempo, Burda, Elele, Elle, Formsanté, Ailem ve Ben, Lezzet, İstanbul Life, Focus, Atlas, Güncel Hukuk, The Gate, Hafta Sonu, Hello!, Capital, Ekonomist の23冊。

メディア以外の部門では金融、エネルギー、工業、貿易、保険、観光などの部門に進出している。2005年上半期レポートでは金融部門からの撤退意思を見せているが、2004年の段階では部門別総収入として、金融9億1600万ドル、メディア9億6800万ドル、エネルギー36億600万ドル、その他2億ドルであった。メディア以外の部門での主な会社として、金融ではドゥシュ銀行(Dışbank)、ライ保険(Ray Sigorta)、Doğan Factoring、エネルギーでペトロールオフィシ (Petrol Ofisi ; ガソリンスタンドなど)、Erk Petrol Yatırımları、観光部門ではボドルム港 Milta Bodrum Marina、旅行会社 Işıl Tur、ケメルやボドルムでバケーションのための高級ホテルや施設運営を行う Milta Turizm、工業ではÇelik Halat, Ditaş、流通・貿易ではMilpa、Hürriyet Pazarlama、フォードの販売などのDoğan Otoなどが挙げられる。

なお、ドゥシュバンクは2005年4月14日にヨーロッパ、特にベネルクス3国に強い基盤をもつフォルティス・バンクのフォルティスグループに売却され、2005年現在保有されていない。また現在最大の利益をあげているペトロールオフィシは2000年の民営化移行のための入札時に7月21日付でテュルキエ・イシュ銀行 (Türkiye İş bankası) と提携で獲得され¹²、2004年の時点ではドアン・シルケットレル・グルブ・ホールディング (Doğan Şirketler grubu Holding A.Ş) が株式の47.42%、テュルキエ・イシュ銀行が39.33%を所有していたが、2005年11月5日現在ドアン・シルケットレル・グルブ・ホールディングが92.98%を所有している状況だ。¹³

(2) ドアン財閥の成長¹⁴

¹¹ <http://www.dbr.com.tr/> Doğan Burda Dergi ホームページより 11月10日ダウンロード

¹² PetrolOfisi 2001 Finansal Raporu,p7

¹³ <http://www.poas.com.tr> (ペトロールオフィシホームページ) より 11月5日ダウンロード。

¹⁴ 文中記載以外は <http://www.doganholding.com.tr/sektor/>を参照

アイドゥン・ドアンは 1950 年代後半に実業界に進出し、1979 年にミリエツト紙 (Milliyet) を所有して以来、2005 年現在まで出版・放送界を離れていない。

アイドゥン・ドアンはミリエツト紙を購入した時点では、コチ財閥の自動車工場を所有するのみであったが、1980 年代に旅行業界、1994 年にドウシュバンクを購入し金融部門へと進出した。1994 年 7 月にはヒュリエツト紙を出版するヒュリエツト・ガゼテジリック・マトバージュールック社 (Hürriyet Gazetecilik Matbaacılık AŞ) を含むヒュリエツト財閥 (Hürriyet Holding) を買収し、構造内に取り込み、大きく成長した。

アイドゥン・ドアンは 1936 年にギュムシュハーネのケルキット(kelkit)で生まれ、エルジンジャン高校、イスタンブル高等貿易学校を卒業後 1958 年に実業界に入った。運送、自動車、トラック、トラクター販売を経たあと、経緯は不明だがコチグループの援助を受けて 1970 年にテキルダーに自動車工場創設した。その当時からコチグループのイナン・クラッチ (İnan Kırac) と交友関係があったという (以上 Topuz :334)。1972 年にはロット生産や自動車部品の Ditaş、1980 年には工業品や不動産などの流通の Milpa を創設した。

1979 年 2 月 1 日にミリエツト紙で高名な記者であったアブディ・イペッキチ (Abdi İpekçi) が暗殺されたのをきっかけに所有者のエルジュメント・カラジャン (Ercüment Karacan) は出版界から撤退、ミリエツト紙を売りに出した。ミリエツト紙はコチグループのイナン・クラッチが買い取り意思を一時は示したものの、世論の反応が良くなかったため手を引いたという (Sönmez :151)。結果的に 1979 年にアイドゥン・ドアンがミリエツト紙の株を 75%購入、1980 年 10 月にはほぼ全株式を所有した。この経緯からドアンのミリエツト紙購入にはコチグループが援助したとされ、そのためドアングループの所有する新聞はコチグループに批判的な記事は掲載されないという話もある (Topuz :335) が定かではない。

1992 年には民営化決定が下されたライ保険の株式の大部分を購入した。また前述のように 1994 年 7 月にはヒュリエツト紙出版会社を含むヒュリエツト・ホールディング (Hürriyet Holding) をシマーヴィ家のエロル・シマーヴィ (Erol Şimavi) から買収し、大幅にグループは拡大した。

1996 年にトルコ国外向けの EuroD チャンネルを放送開始し、1997 年 9 月にロープや金属線などを生産する Çelik Halat のほぼ全株式を購入、12 月にはエーゲ海地方ボドルムの港を民営化される際に購入して Milta Bodrum Marina とした。

1999 年には CNN トルコがドアン放送出版ホールディングとワーナーの提携で放送が開始された。

2000 年には民営化移行のための入札でペトロールオフィシを 7 月 21 日にトゥルキエ・イシュ銀行と提携で獲得したが、2005 年 9 月 2 日にはそれまでトゥルキエ・イシュ

銀行の所有していた残りの 44.06%を購入し、現在同社の株をほぼ所有している状況である¹⁵。

また、アイドゥン・ドアンドアンの四女ヴスラット・ドアン・サバンジ (Vuslat Doğan Sabancı) はヒュリエット紙出版社の理事長兼役員を務めているが、元サバンジ・ホールディング社員で現在エサス・ホールディング傘下のペガサス航空で会長を務めるアリ・サバンジ (Ali Sabancı)¹⁶と夫婦関係である。

¹⁵ <http://www.doganholding.com.tr/sektor/enerji.asp> ドアンホールディングホームページ

¹⁶ <http://www.flypgs.com/pegasus.ailesi.asp>

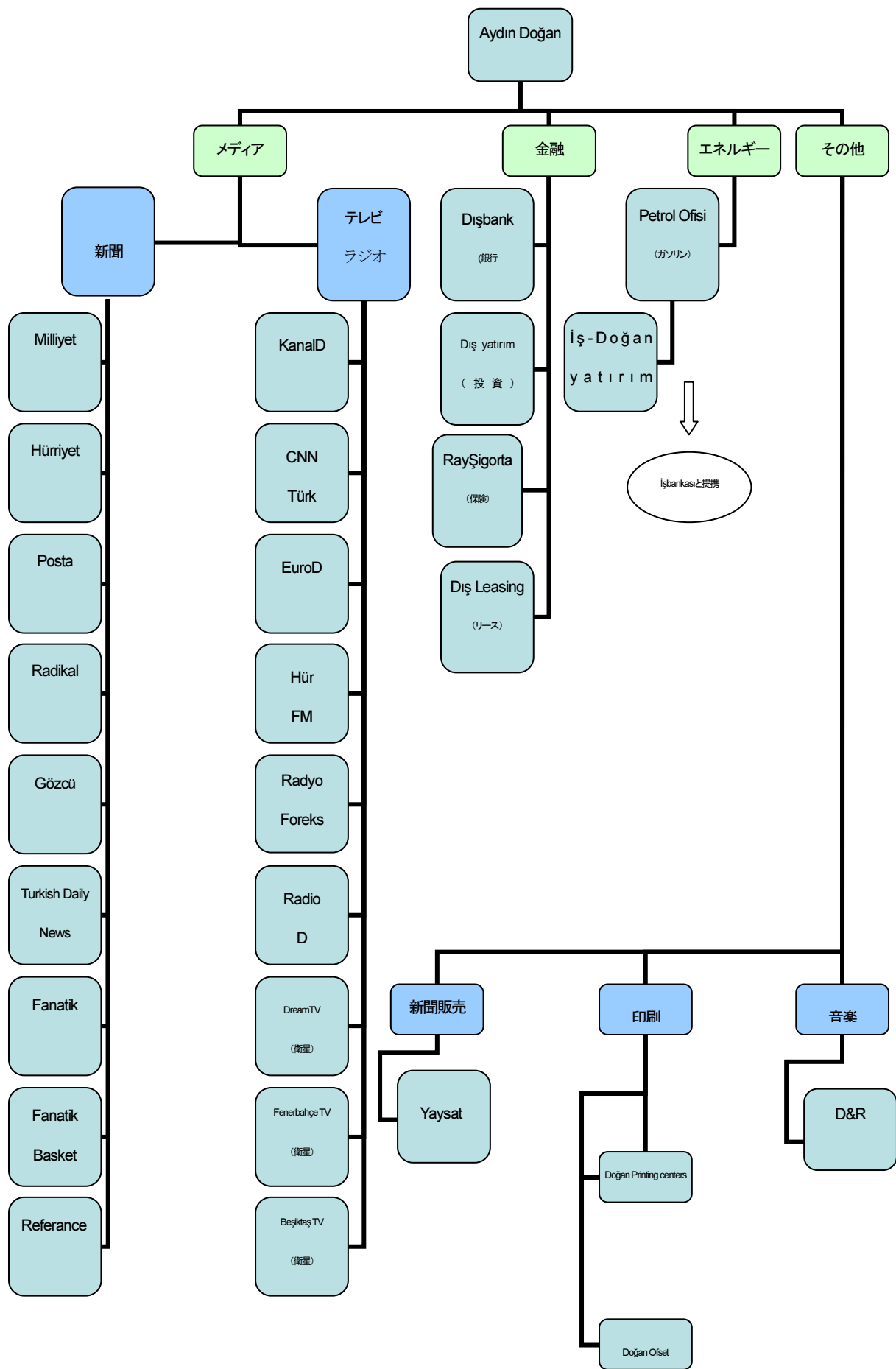


表2 ドアン財閥主要会社略図 Doğan Holding Annual Report 2004 より筆者作成
 注：ドゥシュバンクは2005年現在売却済

2. メディア財閥 (Medya Holding)

所有者はディンチ・ビルギン(Dinç Bilgin)。

このグループの元はイズミルのイエニ・アスル紙 (Yeni Asır) にさかのぼる。この新聞は1895年にセラニキにて創刊された。創刊者のひとはファズル・ネジップ (Fazlı Necip ; 1863–1932)、もう一人はディンチの祖父であるアブドゥラフマン・アリフ (Abdurahman Arif ; 1865–1918) であった。

イエニ・アスル紙はイズミルに移ったあと、エーゲ地方における大地方紙となる。ディンチの父親であるセヴカット・ビルギン (Sevkat Bilgin) が1978年に亡くなった後同紙をイスタンブルで出版しようと、ディンチは機械をイズミルからメジディエキョイに移し (Topuz:287)、イエニ・アスルを1982年に出版開始した。1985年4月22日にサバフ紙 (Sabah) を創刊、1985年4月18日にはサバフ出版社 (Sabah Yayıncılık A.Ş.) を創設した。このときにギュナイドゥン紙 (Günaydın) からザフェル・ムトゥル (Zafer Mutlu) をはじめとする20人ほどの記者を引き抜いたという (Topuz:288)。

取締役会にはディンチ・ビルギン、ギュレル・ビルギン(Güler Bilgin)、オナイ・ビルギン (Önay Bilgin) のビルギン家の人間のほかに、ザフェル・ムトゥル、ギュンギョル・メンギ (Güngör Mengi) などの記者の名前もあったという (Sağnak:80)。

ディンチ・ビルギンが会長をしていたメディア・ホールディング (Medya Holding) 傘下のメディア関連企業は、サバフ出版 (Sabah Yayıncılık A.Ş.) , Bugün Yayıncılık A.Ş., Ekonomi Yayınları Sanayi ve Ticaret A.Ş., Dönemli Yayıncılık A.Ş., Medya Basın Servisleri Ticaret A.Ş., Gelişim Yayıncılık A.Ş., Bir Numara Yayıncılık A.Ş.だという (Topuz:342)。

出版していた新聞はサバフ紙 (Sabah)、イエニ・ユズユル紙 (Yeni Yüzyıl)、イエニ・ビンユル紙 (Yeni Binyıl)、タクヴィム紙 (Takvim)、ブギユン紙 (Bugün)、フォトマツチ紙 (Fotomaç)、テレビ局はATV、Kanal6があった。

1997年12月1日にジャヴィット・チャーラル (Cavit Çağlar) の İpek Ortak Girişim グループが1997年に民営化されたエティバンク (Etibank) を15億5500万ドルにて購入、その İpek Ortak Girişim Grubu の株35%をディンチ・ビルギンのメディア・ホールディング、14%をディンチ・ビルギンが個人で購入して合計49%をディンチ・ビルギン・グループが所有した。翌年1998年の5月2日には完全にビルギンのメディア・ホールディングの傘下に入った¹⁷。

たが、エティバンクは2000年10月27日に銀行調整管理機構 (BDDK) により金融監督庁下の預金保険基金 (TMSF) の管理下に移行決定がなされ、破綻した。

¹⁷ “Aslan payını kim kaptı?” *Milliyet*, 29.10.2000
<http://www.milliyet.com.tr/2000/10/29/ekonomi/eko01.html>

またグループ傘下サバフ・パザルラマ社が同社とメディア・ホールディングの株式をほぼ破綻の一週間前の10月20日にパーク・グループのトゥルガイ・ジネル(Turgay Ciner)に株式の半分を売却していたこと、またエティバンクの民営化の際には国務大臣であったギュネシュ・タネルはメディア・ホールディングの取締役会役員となっていたが、同社の接收の2時間前に辞職したとして問題となった¹⁸。またサバフ出版などメディア部門の会社の株式も、エティバンク接收後にチュクロヴァ財閥とMVホールディングとパーク・グループの共同出資であるMTM Haber Yatırım AŞに移転され、経営が移行した¹⁹。

前述のトゥルガイ・ジネルへの株式売却とともにこれらの動きはTMSFによる接收を免れるためであったとミリエット紙は述べている²⁰。エティバンクの接收後にもかかわらず、ビルギン・グループの株式をMTM社に所有に移したことで公正競争評議会からディンチ・ビルギン、トゥルガイ・ジネル、MTM社に対し一人当たり9億4900万リラの罰金が科せられた²¹。

ディンチ・ビルギンは2001年4月2日に詐欺罪やエティバンクの資金を不正に横領したなどの罪で逮捕された。

また2002年9月4日にはザフェル・ムトゥルを始めとしたサバフ紙の主要な記者達が辞職、Bağımsız Gazeteciler Yayıncılık A.Ş.という会社を創り独立し、ヴァタン紙(Vatan)を創刊した。ディンチ・ビルギンはこの動きにアイドゥン・ドアンが関わっており、彼の援助のもと記者が独立したと訴えるが、ドアンはもし事実であれば公表しているとして否定している²²。

ヴァタン紙は「トルコでたった一つの独立した新聞」をうたい文句に売り出した。2002年10月1日には、Bilgin Yayıncılık A.Ş.の所有する出版物を15年の間出版する権利がジネル・グループに売却されていたが、ドアングループのアイドゥン・ドアンも11月11日に5億ドルの提示を行い購入者候補の名乗りをあげた。これに対して各紙は「メディアでまた独占が広がる」と反論したが、ドアングループのエルトゥールル・オズキョク(Ertuğrul Özkök)は「我々の目的はサバフ紙とATVを買収することではなくて、公的な借金となってしまった11億ドルにもなる負債返済に貢献するため」と述べた²³。しかしこの提示は却下され、結局ジネルによる出版が続行されていたが、ついに2005年5月4日に

¹⁸ “ El konmadan iki saat önce ayrıldı”, *Milliyet*, 03.11.2000

¹⁹ “Ceketini aldı ve gitti,” *Milliyet*, 30.11.2000

²⁰ “435 milyon dolarlık satışın perde arkası,” *Milliyet*, 31.03.2005

²¹ “Rekabet Kurulu'ndan 'büyük' ceza!,” *Milliyet*, 04.09.2003

²² Nuriye Akman, “Aydın Doğan: Dinç Bilgin doğru söylüyor, mikropsuz medya istiyorum”, *Zaman*, 08.09.2002 (<http://www.zaman.com.tr/2002/09/08/roportaj/default.htm>)

²³ “Doğan Grubu Sabah için teklif verdi,” *Hürriyet*, 11.11.2002

ジネルグループが TMSF からサバフグループを 4 億 3300 万ドルで正式に購入することで同意にいたった。

2005 年 7 月 21 日、ディンチ・ビルギンに 14 年の懲役刑、4 億 9997 万 7000YTL の罰金、元共同経営者のジャヴィット・チャーラルには 3 年の懲役刑、2 万 YTL の罰金が科せられた²⁴。これに対して 2005 年 12 月 16 日にはディンチ・ビルギンからこの判決を下した判事が訴えられるなど、未だに問題が続いている²⁵。

²⁴ “Dinç Bilgin'e 14 yıl hapis,” *Radikal*, 22.07.2005

²⁵ “Bilgin'den karşı dava,” *Milliyet*, 16.12.2005

3. ジネル・グループ（パーク財閥；Park Holding）

トゥルガイ・ジネル（Turgay Ciner）は1978年5月7日にパーク・グループを創設した。創業時は貿易業、機械部品生産などを行っていたが、1980年代後半には服飾工場やモーター生産などと範囲を広げ、1990年代には国の民営化政策により民営化される国営会社を、特にエネルギー・鉱業を中心に獲得し、成長した。また1995年にはイスタンブール、アンカラなどの市内と空港を連結する、バス運行サービスのハヴァシュ（Havaş）を民営化入札で獲得した²⁶。

メディア部門では、2005年5月4日に、以前ディンチ・ビルギンのチュクロヴァ財閥傘下に所有されていて、預金保険基金（TMSF）管理下にあったサバフ紙、タクヴィム紙、フォトマッチ紙、ATVなどを正式に買い取った。ディンチ・ビルギンはグループ傘下のエティバンクの資金を自身のグループの別会社に流用し、同銀行を破綻に追い込んだことが発覚し、逮捕されていた。同銀行は2000年10月27日に事実上破綻し、TMSF管理下に移された。

トゥルガイ・ジネルは2002年10月1日にTMSF管理下のBilgin Yayıncılık A.Ş.の所有する出版物を15年の間出版する権利を購入、またSatel Sabah Televizyon Prodüksiyon A.Ş.が以前所有しており、TMSFによって管理されていたATVを同じく15年間という期限付きで経営権を購入し、それぞれ新聞をMerkez Gazete Dergi Basım Yayıncılık San. ve Tic. A.Ş.、テレビをMerkez ATV Televizyon ve Prodüksiyon. A.Ş.として経営していた²⁷。よって同日以降サバフ、タクヴィム、フォトマッチの全国紙3紙、イズミルの地方紙イエニ・アスルの経営権はディンチ・ビルギンからトゥルガイ・ジネルに移っていた。メディア部門のホールディングとしてMerkez Yayın Holding A.Ş.、その下にそれぞれ出版・放送会社を所有している。また、後に述べるウルジャック一族のナズル・ウルジャックの息子メフメット・アリ・ウルジャック（Mehmet Ali Ilıcak）のテルジュマン紙（Dünden Bugüne Tercüman）に対し、2005年1月に権利を購入、9月6日には同紙の名称をブギュン（Bugün）に変更した。ところが、2005年11月15日、ブギュン紙の出版権利はコザ・イペッキ・ホールディング（Koza İpek Holding）に売却された²⁸。コザ・イペッキ・ホールディングは1948年にアリ・イペッキ（Ali İpek）によって設立され、カードやカレンダーなどを印刷するコザ印刷を傘下に持っており、最近では建築部門や鉱山業などにも進出している。

[メディア部門の会社]

Merkez Yayın Holding A.Ş.

Merkez Gazete Dergi Basım Yayıncılık Sanayii ve Ticaret A.Ş.（新聞雑誌）

²⁶ <http://www.parkgroup.com.tr/tr/grdes.htm>

²⁷ <http://www.parkgroup.com.tr/tr/grcom.htm>

²⁸ <http://www.milliyet.com.tr/2005/11/16/ekonomi/eko03.html>

Merkez İzmir Gazete Dergi Basım Yayıncılık Sanayii ve Ticaret A.Ş. (Yeni Asır ; ビルギンから)

Merkez ATV Televizyon ve Prodüksiyon A.Ş. (ATV)

Merkez Televizyon A.Ş. (MTV)

Yeni Yayıncılık Prodüksiyon ve Telekomünikasyon Sanayii ve Ticaret A.Ş.

Merkez Reklam Pazarlama Danışmanlık Sanayii ve Ticaret A.Ş. (広告)

Merkez Haber Ajansı A.Ş. (ニュース配信)

Merkez Dağıtım Pazarlama Sanayii ve Ticaret A.Ş. (メルケズ新聞・雑誌集配販売会社。以下 MDP)

Merkez Pazarlama ve Ticaret A.Ş. (広告)

雑誌出版の Merkez Gazete Dergi Basım Yayıncılık Sanayii ve Ticaret A.Ş の出版する雑誌は以下のとおり²⁹ : Yeni Aktüel, Otohaber Merkez, Yeni Para, Şamdan Plus, Home Art Merkez, House Beautiful Merkez, Bebeğim ve Biz Merkez, Gezi Merkez, FHM Merkez, Sofra Merkez, Cosmogirl Merkez, Cosmopolitan Merkez, Harper's Bazaar Merkez, Esquire Merkez, Sinema Merkez, Hülya Merkez, Süper Alışveriş Dergisi, Transport, Global Enerji Merkez, Garaj Merkez, Hukuki Perspektifler Dergisi, Cosmopolitan Bride Merkez, Cosmopolitan Fit & Light Merkez, Marie Claire, Marie Claire Maison

また 2002 年 9 月 2 日には新聞・雑誌の集配販売を行う、MDP 社が創設されたことでアイドゥン・ドアンのヤイサット社と市場を二分する集配会社を持つことになった。

²⁹ <http://www.parkgroup.com.tr/tr/mergazete.htm>

4. チュクロヴァ財閥 (Çukurova Holding)

(1) 概要

所有者はメフメット・エミン・カラメフメット (Mehmet Emin Karamehmet)。
2005 年の時点でグループ傘下アクシャム・グループが出版している新聞はアクシャム (Akşam), ギュネシュ (Güneş), テルジュマン (Halka ve Olaylara Tercüman) の 3 紙である。それぞれ創刊日は 94 年 9 月 14 日、97 年 2 月 4 日、2003 年 1 月 17 日である³⁰。現在この 3 紙出版元の取締役会会長はチュクロヴァ財閥取締役のメフメット・ビュレント・エルギン (Mehmet Bülent Ergin) となっている。同氏は同時に 2005 年 4 月 25 日から、携帯電話 GSM サービスで国内市場 1 位のトゥルクセル (Turkcell) 社の理事でもある³¹。テルジュマン、ギュネシュ紙の出版元は Basın Yatırım San.Tic.A.Ş.、アクシャム紙出版元は Aslı Gazetecilik ve Matbaacılık となっている。グループは雑誌ではアレム (Alem)、プラティン (Platin)、テレビはショーTV (ShowTV)、ケーブルテレビサービスではスカイテュルク (SkyTürk)、ディジテュルク (DigiTürk)、ラジオはアレム FM (Alem FM) を所有している。

メディア部門 (実際の企業名は不明である³²)

Eksen Yayıncılık (テレビ放映),

Mepaş Medya Pazarlama (広告、流通)

Akşam Medya Grup (新聞)

Digital Platform (ケーブル)

Yapı Kredi Kültür Sanat

Zedtaş (ショーTV と ATV のための広告)

【企業名】³³

Basın Yatırım San.Tic.A.Ş. (テルジュマン、ギュネシュ)

Aslı Gazetecilik ve Matbaacılık (アクシャム)

AKS TV Reklamcılık ve Filmcilik San.Tic.A.Ş. (ショーTV)³⁴

Atlas Yayıncılık ve Tic.A.Ş. (スカイテュルク ; ケーブル・衛星放送)

Superonline Uluslararası Elektronik Bilgilendirme Telekomünikasyon ve Haberleşme Hizmetleri A.Ş.
(スーパーオンライン ; インターネットプロバイダ)

メディア以外の部門からいくつか主要な企業を挙げると、金融部門で 2002 年 6 月 19 日

³⁰ 総理府放送出版情報局ホームページ <http://www.byegm.gov.tr/TURKBASINI/gazete-turkce.htm>

³¹ <http://www.turkcell.com.tr/index/0,1028,91100,00.html>

³² チュクロヴァグループホームページ <http://www.cukurova.com.tr/>

³³ 総理府放送出版情報局ホームページ <http://www.byegm.gov.tr/TURKBASINI/gazete-turkce.htm>

³⁴ AKSTV 社はメフメット・エミン・カラメフメットが会長である

破綻したパムックバンク (Pamukbank)、 Yapı Kredi Bankası)、移動体通信 (携帯電話) GSM サービスのトゥルクセルがある。

チュクロヴァグループの起源は古い。現在も服飾分野でシェアを持つチュクロヴァ工業 (Çukurova Sanayi İşletmeleri) が設立されたのは 1880 年とされている。綿の産地であるチュクロヴァ地方で元々大土地所有者であったカラメフメット家は服飾部門を中心に発展し、1954 年に設立されたパムックバンクを 1960 年代に傘下に入れた。1979 年にはドウシユグループから Yapı Kredi Bankası の株を購入、1980 年 3 月には完全に買収した。インターバンクをも一時買収したが 90 年代に入ってジャヴィット・チャーラルに売却した。現在の会長メフメット・エミン・カラメフメットは 1944 年 4 月 1 日にメルシンのタルススで生まれたが、イスタンブールのロバート・カレッジを卒業し、イギリスのドーヴァーカレッジで経済学を学んで 22 歳で実業界に入っている³⁵。1990 年代には観光部門にも進出し、マルマリスやダッチャなどの地中海沿岸におけるリゾート開発などに着手、現在はマルマリスのカルタル・ホテル、アランヤ付近の 4 つ星ホテルクラブ N、エーゲ海沿岸ギョジェックではスイスホテルと提携したスイスホテル・ギョジェック・マリナ・リゾート (Swissotel Göcek Marina Resort)、ギョジェック港もグループ傘下である。

1994 年にはトゥルクセルを設立する一方、メディア部門でもウルジャック家からアクシヤム紙、ギユネシユ紙出版のアクシヤムグループを買収、また実業家エロル・アクソイ (Erol Aksoy) からショー TV を買収した。

(2) パムックバンク破綻

2002 年 6 月 19 日、パムックバンクがグループ企業への乱脈融資や自己資本の不足から TMSF 管理下に移行され事実上破綻すると、チュクロヴァ・ホールディングはグループ傘下の Yapı Kredi Bankası の経営権を失い、またメフメット・エミン・カラメフメットも Yapı Kredi Bankası の役員から外された。

2002 年 8 月 21 日には元々トゥルクセル・ホールディングの 13.7%の株式を所有していたスウェーデン・フィンランドを中心とするテレコミュニケーション企業であるテリア・ソネラ (Telia Sonera) 社が、チュクロヴァ・ホールディングがフィンランドで展開していたテレコム部門のフィントウル・ホールディング (Fintur Holding) 株のうちチュクロヴァグループ所有分 39.69%のうち 23.24%を買収した。残りの 16.45%はトゥルクセル社に移転され、同社のフィントウル株所有率は 41.45%、テリア・ソネラの所有率は 58.55%となった³⁶。この率は 2005 年末現在まで変わっていない³⁷。この株式売却を受けて 2 日後の 8 月

³⁵ http://www.finansalforum.com.tr/haber.aspx?HBR_KOD=5043

³⁶ Turkcell İletişim hizmetleri A.Ş. , 2002 Finansal Raporu - 4. çeyrek, p.31, 2002

23 日、トルコ最高裁判所控訴院は、チュクロヴァ・グループの訴えを受け、パムックバンクの売却を一時中止する決定を下した³⁸。また続いて総選挙後の 11 月 22 日には国家行政訴訟局の審議会は BDDK によるパムックバンクの TMSF への移管決定を取り消しする判決を下した。審議会は BDDK に対して 30 日以内にチュクロヴァ財閥にパムックバンクの営業権を引き渡すように命じた³⁹。この判決を受けて 2003 年 1 月 24 日、BDDK はパムックバンク営業・経営権をチュクロヴァ財閥に返還したものの、3 日後の 1 月 27 日には再び接收された。

(3) 破綻経緯の報道

以上のパムックバンク破綻の経緯が、チュクロヴァ・ホールディング傘下のアクシャム紙、ドアン・ホールディングのミリエツト紙、ヒュリエツト紙の報道の中で特徴的なものを少し紹介する。

2002-06-19 パムックバンク破綻

2002-06-20 アクシャム紙：「人が良すぎて犠牲になった (İyi niyetinin kurbanı oldu)」
パムックバンクは「最もダイナミックな銀行 (en dinamik banka)」であったが、「顧客主義 (Müşteri odaklı hizmet)」のサービスばかりしていたため「国家の犠牲」になった、という報道⁴⁰

2002-11-23 パムックバンク TMSF 移管取消

- ・アクシャム紙：「法の勝利 (Hukukun Zaferi)」⁴¹
「正義が中止を命じた (Adalet Dur Dedi)」 「BDDK は 33 頁のレポートも読まずにパムックバンク・ヤプ・クレディ銀行の合併を拒否した」等の項目。
- ・アクシャム紙：「IMF がどう介入するということか (IMF ne karışır)」⁴²
移管取消の判決は IMF のクライテリアに反するという意見に対して反論。
- ・アクシャム紙：「与党公正発展党 (以下 AKP) がペトロールオフィシ問題に着手 (AK PARTİ POAŞ'a el attı)」。AKP 議員エミン・シリン⁴³がドアン・グル

³⁷ <http://www.finturholdings.com/html/shareholders/>

³⁸ “Pamukbank’ın satışı Danıştay’ca durduruldu,” *Milliyet* 23.08.2003,

³⁹ <http://www.milliyet.com.tr/2002/11/23/ekonomi/eko01.html>

⁴⁰ <http://www.aksam.com.tr/arsiv/aksam/2002/06/20/ekonomi/ekonomi1.html>

⁴¹ <http://www.aksam.com.tr/arsiv/aksam/2002/11/23/ekonomi/ekonomi1.html>

⁴² <http://www.aksam.com.tr/arsiv/aksam/2002/11/23/ekonomi/ekonomi2.html>

⁴³ 後述のウルジャック家のナズル・ウルジャックとは夫婦関係。

ープ傘下のペトロールオフィシ民営化の際の汚職疑惑に質疑書提出。

・アクシャム紙：「人口の22%はトゥルクセル・ユーザー (Nüfusun % 22'si TURKCELL'li)」

・ヒュリエット紙：「パムックバンク、一時的に売却中止 (Pamukbank şimdilik durdu)」⁴⁴。パムックバンク問題は市場を2.2%低下させた。

2003-01-24 パムックバンク、チュクロヴァ財閥に返還

・アクシャム紙：「法の勝利」

・ヒュリエット紙：「パムックバンク、『一時的に』返還 (Pamukbank 'şimdilik' iade)」⁴⁵

(4) 現在の状況

2004年1月に至ると、以上のパムックバンクの接收・返還劇の真相が明らかになった。法務省による8ヶ月もの準備期間を経て行われたオペレーションにより、チュクロヴァ・ホールディングのエルシン・パムックスゼル (Ersin Pamuksüzer) 理事、ショーTVのサネル・アイエル (Saner Ayer) 社長他5人の弁護士を含む13人を、トゥルクセルやパムックバンク移管決定取消の裁判にあたり、有利な判決を出すため賄賂を用いたとして、贈賄容疑で逮捕された⁴⁶。また、その後の裁判ではこの汚職事件には、ネジュメッティン・エルバカン (Necmettin Erbakan) もかかわっていたことが明らかにされた。パムックバンク裁判の前に、エルバカンの勧めで、チュクロヴァ・ホールディングの弁護士ガリップ・アルトウンタシュ (Galip Altuntaş) によりトゥルクセルから2兆リラの資金を得て判事らに贈賄したという⁴⁷。

チュクロヴァ・ホールディングの最近の状況としては、2005年1月31日にヤプ・クレディ銀行株式57.4%をコチ財閥に売却したことがあげられる⁴⁸。2005年9月28日にはヤプ・クレディ銀行の経営権はコチ・グループに移った。

また2005年3月25日には、トゥルクセル株37%を所有するテリア・ソネラがチュクロヴァ・ホールディングの所有するトゥルクセル株の27%を31億ドルで買収することで同意した。しかしこの合意の後、ロシアのアルファ・グループ (Alfa) がテリア・ソネラの以上の金額を提示できるとしたため、2005年5月13日にはチュクロヴァグループはテリア・ソネラとの合意を白紙に戻すことを発表、テリア・ソネラはジュネーブ、トルコ国内

⁴⁴ <http://www.hurriyetim.com.tr/haber/0,,sid-4@tarih~2002-11-23-m@nvid~200325,00.asp>

⁴⁵ <http://www.hurriyetim.com.tr/haber/0,,sid-4@tarih~2003-01-25-m@nvid~223852,00.asp>

⁴⁶ “Yargıyı sarsan rüşvet operasyonu,” *Milliyet*, 14.01.2004

⁴⁷ “Hoca'ya rüşvet suçlaması” *Milliyet*, 2004年6月17日

⁴⁸ <http://www.milliyet.com.tr/ekonomi/aeko.html>

にて訴訟を起こした⁴⁹。

また2005年11月25日にはロシアのアルファ・グループによりトゥルクセル株の13.22%が15億9300万ドルで買収された。

5. ルメリ財閥 (Rumeli Holding) ⁵⁰

⁴⁹ <http://www.milliyet.com.tr/2005/11/29/ekonomi/aeko.html>

⁵⁰ 通称ウザン・グループ、スター・グループとも言われる。

(1) 概要

ルメリ・ホールディング (Rumeli Holding) を頂点とする通称ウザン・グループを築いたのはケマル・ウザン (Kemal Uzan) で 1950 年代には請負業などを行っていた。50 年代に一時期イエニ・イスタンブル紙 (Yeni İstanbul) を買収して出版していたという (Topuz : 343)。シャンルウルファ、ヴァン、エスキシェヒルやガージアンテプなど主に民営化される南東部のセメント工場を買い取り、ルメリ・セメント社 (Rumeli Çimento) を創設した。また 1984 年にはドウシュ・グループからイマル銀行 (İmar Bankası) を買収し、1985 年にはアダバンク (Adabank) を創設した⁵¹。1993 年には民営化されたチュクロヴァ・エレクトリック (Çukurova Elektrik ; ÇEAŞ)、ケペズ・エレクトリック (Kepez Elektrik) を買収し発電部門に進出した。1994 年には移動体通信のテルシム (Telsim) を創設、1998 年には GSM のライセンスを取得し同社は大きく成長、2005 年時点で移動体通信市場トルコ国内第 2 位の企業となった。

メディア部門では、当時現職中だったトゥルグット・オザル大統領 (Turgut Özal) の息子アフメット・オザル (Ahmet Özal) とスターTV (StarTV) を創設、ドイツから放送を開始し 1990 年 3 月にそれまで国により独占されていたテレビ界に民放として初めて進出した (Kejanlıoğlu : 311)。順調に所有局を拡大し、1995 年の時点ではすでにインタースター (İnterstar)、音楽クリップのクラル TV (KralTV) といったテレビ局やクラル FM (Kral FM) などのラジオ局を所有していた (Sağnak : 341)。また、ほかにメトロ FM (Metro FM)、ラジオ・ブルー (Radyo Blue)、カナル 6 (Kanal6) なども傘下に在ったという (Topuz : 344)。2005 年の売却の報道からすると、2004 年 2 月の接收前には上記のほか、スーパーFM (SüperFM)、ジョイ・テュルク FM (Jöy Türk FM)、ジョイ FM (JöyFM)、ロック FM (Rock FM)、アラトゥルカ FM (AlaturkaFM) といったラジオ局、スターマックス、スター6、スター8 などのテレビチャンネルを所有していたと思われる。新聞では 1999 年にスター紙 (Star) の出版が開始、2002 年にはダムガ紙 (Damga) を出版していた。

(2) 政界進出

2002 年 11 月総選挙にて、ルメリ・ホールディング創設者ケマル・ウザンの孫にあたりテルシムなどの傘下企業で理事を務めていたジェム・ウザン (Cem Uzan) が青年党 (Genç Parti ; GP) を立党し、党首として政界に進出を目指した。

しかし 2002 年 1 月 30 日の時点ですでにケマル・ウザンとテルシム社社長ハーカン・ウザン (Hakan Uzan)、理事のジェム・ウザンらはアメリカのモトローラとフィンランドのノキアによって債務不履行で訴えられている⁵²。訴訟は債務不履行の他に脅迫やハッキング

⁵¹ <http://www.zaman.com.tr/2003/07/05/ekonomi/h16.htm>

⁵² “Uzan davasını dünya konuştu” *Milliyet*, 30. 01. 2002

など合計 13 の違法行為を訴因としており、モトローラ・ノキア両社合計で 30 億ドルにのぼる賠償金を要求されていた。続いて 2002 年 3 月 25 日にはジェム・ウザンら役員 7 名が職権濫用や不正取引の罪で国家検察局から告訴されていた。

2002 年総選挙前の 10 月初旬には、高等選挙管理委員会 (YSK) により、グループ傘下のスターTV などテレビ局 3 局が「公正な選挙運動に抵触するとして」6 日間放映停止⁵³命令が下されるほど、所有するメディアを駆使した選挙運動を展開したが、結果として青年党は 7.5%の票を獲得したものの 10%を越えることはできなかった。

総選挙後の 2002 年 12 月 21 日にはジェム・ウザンに対して、ロンドンの高等裁判所は、モトローラとノキアに対する違約問題についての審問への出頭を拒否したことで、15 ヶ月間の懲役を命じる判決を下した⁵⁴。またさらに 2003 年 1 月 30 日には英国最高裁判所により同様の理由でケマル・ウザンとその第 2 子ハーカン・ウザン氏に各々懲役 15 ヶ月を宣告した⁵⁵。

(3) グループ崩壊

2004 年 4 月の地方選挙を控えた 2003 年 6 月、9 日に行われた国営石油化学公社(Petkim) 民営化入札でウザン・グループ関連企業によって 6 億 500 万ドルの最高額提示が出たものの、エルドアン首相による「価格が低すぎる」との反発で、高等民営化委員会の承認が下りていなかったこと⁵⁶や 12 日、エネルギー省により資金の不正流用の疑惑のため、チュクロヴァ・エレクトリック(ÇEAS)とケペズ・エレクトリック社の操業権・経営権が取り消された⁵⁷ことで、元々対立していた与党 AKP のエルドアン首相と青年党のジェム・ウザンの関係が完全に険悪化した。翌日の 13 日にブルサにて行われたミーティングにて、ジェム・ウザンが、エルドアン首相と政権に対して誹謗中傷したことで、AKP とエルドアン首相がジェム・ウザン青年党党首とウザン・グループに対して名誉毀損などの訴訟を起こした。この結果 2004 年 10 月にはジェム・ウザンに対し 8 ヶ月の懲役と 6 億 9356 万 9000 リラの罰金の判決を下した⁵⁸。ジェム・ウザンはチュクロヴァ・エレクトリックとケペズ・エレクトリックを、青年党が AKP に対して政敵となったことが原因で、差し押さえさせたと主張しており、またエルドアン党首と AKP を口汚くののしっていたという⁵⁹。

⁵³ “ YSK, Star’ı 6 gün kapattı”

⁵⁴ “Uzan’a 15 ay hapis”*Milliyet*,22.12.2002

⁵⁵ “Kemal ve Hakan Uzan’a 15’er ay ceza”,*Milliyet*,01.02.2003

⁵⁶ “Petkim değerinin çok altında”,*Milliyet*,10.06.2003

⁵⁷ “ÇUKUROVA VE KEPEZE EL KONDU”,*Milliyet*,13.06.2003

⁵⁸ “Uzan için sekiz ay hapis kararı”,*Radikal*,12.10.2004

⁵⁹ “Star ve Uzan Erdoğan’a ‘kalleş’ dedi, savcılık soruşturma açtı”,*Zaman*,14.06.2003

“Kalleş (裏切り)”, “Allahsız (無神論者)” ve “Eşkıya (山賊)”, AKP のことを“*Aldatma (篡奪) Kandırma*

続く 2003 年 7 月 3 日には銀行調整監視機構によりグループ傘下のイマール銀行の経営権・銀行業務続行権利が剥奪された。この直前の 1 週間顧客の引き出しに応じていなかったという。また同日、ラジオ・テレビ高等評議会(RTÜK)は、ジェム・ウザンによる、エルドアン首相に向けた中傷発言を含む映像を放映したことが RTÜK 法 4 条に反するとして、グループ傘下のテレビ局スターTV、カナル6、スターマックス、スター6、スター8 の 5 局に対してそれぞれ 1 ヶ月間の放送禁止処分を決定した⁶⁰。また銀行調整監視機構による調べによりイマール銀行で二重帳簿や架空口座などの不正行為が行われており、また同機構の手が入ったときには証拠隠滅などの行為がなされていたことが明らかになった⁶¹。

2004 年 2 月 14 日、移動通信体（携帯電話）システムのテルシム (Telsim) やスターテレビを含む、合計 219 社のウザン一族の会社が破綻したイマール銀行の債権回収に充てるため預金保険基金により接收された。また 28 日にはウザン・グループにより、チュクロヴァ・ホールディングと同様の返済協定を提示したものの預金保険基金はこれを却下した。

その後 2005 年 9 月には、預金保険基金管理下のウザングループ関連会社が競売入札にかけられた。テレビ局スターTV の入札にはドアングループ傘下のウシュル TV (Işıl Televizyon Yayıncılık Ticaret AŞ)、ジネル・グループのジネル TV (Ciner Televizyon ve Radyo İşletmeciliği)、カナダのカンウェスト (Canwest) が出資する CGS TV (CanWest Global System)、エティク出版(Etik Yayıncılık)、アトランティック出版(Atlantik Basın Yayın AŞ)の 5 つの企業が申請を行ったが 26 日、入札の結果 3 億 650 万ドルにてドアングループに売却されることとなった⁶²。またラジオのスーパーFM (SüperFM) 入札では 3,310 万ドル、メトロ FM (MetroFM) では 2,285 万ドルでトゥルクコム (Turkcom) 傘下パシフィック TV (Pasifik TV ve Radyo) とカナダ・カンウェストの連携で買収された。現行法では外資企業のメディア部門買収は 25%までとの規定があるため、連携を行ったとのことで、法が改正されれば 75%まで所有するつもりであることを明らかにしている⁶³。またジョイ・テュルク FM (Jöy Türk FM) とジョイ FM (Jöy FM) の入札はドアングループがそれぞれ 300 万ドル、150 万ドルと最高価格を提示したものの予定落札価格にいたっていなかったため落札が承認されず、再び入札が行われることとなった。2006 年 1 月 17 日までの申請期間後に再度売却入札にかけられる⁶⁴。また 9 月 27 日にはロック FM がカルマ放送 (Karma Radyo ve Televizyon A.Ş.) に 35 万ドル、アラトゥルカ FM がアレス放送 (Ares Radyo ve Televizyon Yayıncılık A.Ş.) に 19 万ドルにて売却された。また、9 月 30 日にはミュージック・クリップ放送のクラル TV がチュクロヴァ財閥傘下の AKS 放送 (AKS Uluslararası Yayıncılık) により 4510 万ドルの提示

(詐欺) Partisi (党) ”などと誹謗したという。

⁶⁰ “Uzan'ın 5 TV'sine 30'ar gün kapatma”, *Hürriyet*, 04.07.2003

⁶¹ “İmar'da örgütlü, yasadışı işlem dizisiyle karşılaştık”, *Milliyet*, 19.07.2003

⁶² “Star TV, 306.5 milyon dolara Doğan Grubu'nda”, *Milliyet*, 27.09.2005

⁶³ “Şimdilik 'Kutman FM', yasa değişirse 'Kanada FM' olacak”, *Milliyet*, 22.09.2005

⁶⁴ “Star Gazetesi yeniden satışta”, *Hürriyet*, 06.12.2005

がなされた⁶⁵が、その後、提示価格は予定価格にそっていたものの、入札に AKS 放送一社のみしか参加せず競合相手がいなかったことを理由に落札が承認されなかった⁶⁶。

また 2005 年 8 月末にノキア・モトローラとの問題に一応の決着がつき、テルシム売却で得られる資金の一部を両社への返済に充てることでの合意を受け、12 月にテルシムを売却する競合入札が行われた。両社は、同一族は第 3 世代無線ネットワークを構築するために両社から 27 億ドルを借り入れたものの返済する意思がないとし、債務不履行のため提訴しており⁶⁷、2005 年 5 月には米連邦最高裁により、ウザン一族がモトローラに大規模な詐欺行為をしたと判断し 21 億 3000 万ドルの賠償金支払いを命じた 2003 年 7 月 31 日の連邦地裁の判断を支持する終審判決が下されていた。

入札には英国の携帯電話サービス、ボーダフォン・グループやクウェートのモバイル・テレコミュニケーションズ (MTC)、エジプトのオラスコム・テレコム・ホールディング (Orascom)、ロシアのシステム JSFC (Sistema JSFC)、ドバイのエティサラット・テレコミュニケーションズ (Etisalat)、同じくドバイのインターナショナル・インベストメンツ・アンド・テレコミュニケーションズ が参加したが、結局ボーダフォンにより 45 億 5000 万ドルで落札された⁶⁸。

⁶⁵ <http://www.radikal.com.tr/haber.php?haberno=164638>

⁶⁶ <http://www.milliyet.com.tr/2005/10/04/ekonomi/eko07.html>

⁶⁷ <http://www.sabah.com.tr/2004/04/18/eko105.html>

⁶⁸ <http://www.milliyet.com.tr/2005/12/14/ekonomi/aeko.html>

6. ドウシュ財閥 (Doğuş Holding)

(1) 概要

アイハン・シャヘンク (Ayhan Şahenk) により設立、1950年代から建築業を始め、1966年以降は観光業とダム建設などの建築業で大きく成長した。1974年には食品業に進出、1975年には持ち株会社であるドウシュ・ホールディングを創設して、ヤプ・クレディ銀行とイマール銀行の株を購入して金融部門へと進出するが、これらは一時保有したものの売却され、1983年にはガランティ銀行 (T. Garanti Bankası A.Ş.) を買収した。1987年にはキョルフエズ銀行 (Körfezbank A.Ş.) を創設し、自動車業界にも進出した。1994年にはエクスプレス銀行 (Bank Ekspres) を買収するが1997年には売却し、同じ1997年にオスマンル銀行 (Osmanlı Bankası) を買収したが、2000年の経済危機を経て2001年6月キョルフエズ銀行はオスマンル銀行に吸収される形で統合され、そのオスマンル銀行も12月にはガランティ銀行に統合された。2005年現在所有する銀行はガランティ銀行のみとなった。

金融部門はガランティ銀行のほかに、ガランティ保険 (Garanti Sigortası)、ガランティ・リース、ガランティ不動産 (Garanti GYO) などがある。

2004年度部門別の歳入の割合では、金融が全歳入の52%、自動車部門が29%、小売販売が14%、建設3%、観光1%、その他1%となっている⁶⁹。

服飾部門では1997年設立のアレナ・ギイム (Arena Giyim) が、アルマーニ、グッチのトルコにおける販売を行うほか、2001年2月にはイタリアのブランド、トッズ (Tod's) の販売権を得ている。

観光部門では、マルマリスのホテルグランドアズール、アンタルヤのシェラトンボイジャーホテル(1991年購入)、アランヤのクラブアルディアナ&パラダイスアパートホテル(1994年)、イスタンブルのハイアットリージェンシーホテル(1999年)などを所有しているほか、アントウル・トゥリズム (Antur Turizm) などの旅行会社も所有している。

また、小売販売部門では1999年スーパーマーケットチェーンのタンサシュ (Tansaş) と高級スーパーのマクロセンター (MacroCenter) を買収している。自動車販売ではフォルクスワーゲンと提携し販売会社 Tüketici Finansman Şirketi (VDF) を所有している。

(2) メディア部門

1990年にメディア部門 Doğuş Grubu İletişim ve Yayıncılık A.Ş. を創り、同じく1990年1月 NTV と KanalE を買収した。

2000年5月15日ニュース専門局 NTV-MSNBC が放送開始、10月16日には Kanal E と CNBC 提携の CNBC-e が放送を開始した。同局はアメリカの CNBC とは多少異なり、放送

⁶⁹ Doğuş grubu 2004 yıllık rapor, p4. <http://www.dogusgroup.com.tr/yatirim.asp?lang=tr> より2005年11月1日ダウンロード

内容は主に FOX チャンネルの海外ドラマが主流でニュース専門チャンネルではないような印象である。

同じく 2000 年 11 月 1 日にはラジオ・エクセン (Radio Eksen)、11 月 13 日には NTV ラジオが放送を開始した。

2003 年 3 月 1 日にはディスカバリー・チャンネル、2004 年 4 月 1 日にラジオ N101、2004 年 8 月 1 日にはケーブルテレビでバスケットボール専門の NBA テレビが放送開始した。

2001 年 4 月には創設者アイハン・シャヘンクが他界しフェリト・シャヘンク (Ferit F. Şahenk) がドウシュ・ホールディングの取締役会会長に就任した。

[メディア部門会社一覧]

- Enformasyon Reklamcılık ve Filmcilik San.ve Tic.A.Ş. (CNBC-e)
- NTV Haber Ajansı Reklam ve Tic. A.Ş. (NTV、ニュース配信)
- Tasfiye Halinde A.V. Video Film Medya Yayıncılığı Ltd.Şti.
- A Yapım Televizyon Programcılık A.Ş.
- Çözüm Yayıncılık ve Ticaret A.Ş.
- Doğu Grubu İletişim Yayıncılık ve Tic. A.Ş. (雑誌出版)
- E Haber Ajansı Ltd.Şti. (ニュース配信)
- Yonca Radyo ve TV Yayıncılık A.Ş. (ディスカバリー・チャンネル)⁷⁰

また、グループ傘下の雑誌出版社 Doğu Grubu İletişim Yayıncılık ve Tic. A.Ş.の出版する雑誌は、L'Official, Car, F1Racing, NTVMAG, Tarçın, Popüler Tarihi、National Geographic の 6 冊である⁷¹。

⁷⁰ 前掲、p. 28-30

⁷¹ <http://www.dogusiletisim.com/tarcin/default.html>

7. ウルジャック一族 (İlcaklar)

テルジュマン (Tercüman) 紙が創刊されたのは1954年、4人の実業家たちによって出版された。その後ラグップ・クトマン (Ragıp Kutman) という実業家の手に渡ったが1960年5月27日クーデターにより、所有者のいない状況になった。1960年代にはケマル・ウルジャック (Kemal İlcak) の手に移り、ウルジャックは新聞出版のほかに電機やテレコミュニケーション、自動車部品などの分野にも進出した。テルジュマン紙はナショナリズム・保守的な路線で読者を獲得していたという (以上 Topuz:330)。1983年から1993年の間、ケマル・ウルジャックとその妻ナズル・ウルジャック (Nazlı İlcak) は祖国党 (Anavatan Partisi; ANAP) のトゥルグット・オザルの首相時代、スレイマン・デミレル (Süleyman Demirel) の正道党 (Doğru Yol Partisi ; DYP) を支持しており、その政敵トゥルグット・オザルに対しては常に批判的であったという (Topuz:293,Sağnak:61)。このため、ナズル・ウルジャックのブルバール紙 (Bulvar) は政治的圧力のため廃刊となり、またナズル・ウルジャックはテルジュマン紙での執筆活動休止を余儀なくされた (Sağnak:61)。1991年にはテルジュマン紙の経営は悪化し、記者たちは9ヶ月もの間給料を得ることができなかつたため8月5日には業務を放棄、50万リラずつ支払われたほどであった (Topuz:293)。デミレルの首相就任の後テルジュマン新聞出版社 (Tercüman Gazetecilik ve Matbaacılık A.Ş.) は倒産したが、その印刷機械やテルジュマン紙の著作権はナズル・ウルジャックの所有するインタープレス情報通信社 (İnterpress Haber Ajansı A.Ş.) に移された (Sağnak:62)。

1993年には、ケマル・ウルジャックはAY-BA建設社から1200億ドルで購入した⁷²650万平方メートルの不動産を3460億リラという過大な値段にてイルクサンという初等教育組合に売りつけた。その支払いのためにケマル・ウルジャックとイルクサンの責任者が2月6日にデミレル首相に訴え、その翌日、財務省から500億リラの支払い命令書が教育省に送られ、メフメット・アリ・ユルマズによって承認されたという汚職事件、イルクサン事件 (İlksan Olayı) が4月7日に明らかになった。

事件が明るみに出たショックでケマル・ウルジャックは脳出血を起こし、1993年4月9日に亡くなったことで、その後、テルジュマン紙も廃刊となった (Topuz:294)。

その後、1997年12月17日に結成された美徳党 (Fazilet Partisi) 議員として政界でも活動していたナズル・ウルジャックは、2001年5月に国会で問題となった美徳党議員メルヴェ・サファ・カヴァクチュ (Merve Safa Kavakçı) がスカーフをつけて登院した事件に関わっており、結局この事件が憲法裁判所により美徳党解散の命令が出されることにつながる決定的な要因となった。憲法裁判所は2001年6月22日に美徳党に解散命令と、言動が世俗主義に反するとして、ナズル・ウルジャックとベキル・ソバジュ (Bekir Sobacı) 議員の

⁷² <http://arsiv.sabah.com.tr/2003/08/18/g01.html>

イルクサン・スキヤンダル (İlksan skandalı) とも呼ばれる。

国会議員資格剥奪の判決を下した。

また、ナズル・ウルジャックとベキル・ソバジュら5名の女性議員が同時に5年間の政治活動禁止を命じられた。その後、ナズル・ウルジャックは欧州人権裁判所に美徳党解散と自身への議員資格剥奪を不服とする訴えをだしている。

2003年1月17日には『テルジュマン』紙が同時に2紙出版され、読者を混乱させた。一紙はナズル・ウルジャックの息子メフメット・アリ・ウルジャック (Mehmet Ali Ilıcak) が所有者となっている『ドュンデン・ブギュネ・テルジュマン』 (Dünden Bugüne Tercüman) 紙、もう一紙はチュクロヴァ財閥から出版された、『ハルカ・オライララ・テルジュマン』 (Halka Olaylara Tercüman) 紙である。同日メフメット・アリ・ウルジャックとナズル・ウルジャックは記者会見を開いて、テルジュマンというのはただの新聞の名前ではなく、父ケマルの遺志をつたえるミッションであり、「銀行詐欺」を行ったチュクロヴァ・ホールディングはこれにあたらないと述べたという。「テルジュマン」紙の出版権利が両者により取り合いとなったため、チュクロヴァ側があわてて出版開始日をあわせてきたのだとメフメットは主張した⁷³。

結局ウルジャック側の「テルジュマン」紙は2005年9月6日にトゥルガイ・ジネルのジネルグループ (パーク財閥) による買収で、紙名を「ブギュン」に名称を変更すると同時に、編集長も変更になったが、ナズル・ウルジャックはブギュン紙となった現在でもコラム記者として執筆を続けている。また、後に述べるアルバイラック・グループのイエニ・シャファック紙でも記者として活動している。アルバイラック一族は現在単独政権についている AKP のエルドアン首相とイスタンブル市長時代から親しい関係にある。また AKP は解散した美徳党から分派したうちの一派である。

ナズル・ウルジャックは元 AKP 議員のエミン・シリン (Emin Şirin) と夫婦関係にある。エミン・シリンは2002年のチュクロヴァ財閥傘下のパムックバンク破綻問題で厳しい追及を行い、2005年1月には79名の新聞記者が報道法に違反しているとして法務省に対し質問書を提出したりもしている⁷⁴。また、Haber x.com というインターネット上のニュースサイトで記事を書いている。2002年11月の選挙当選後、AKP を離党し無所属議員となっていたが、2005年8月には ANAP に入党し副党首となった⁷⁵。

⁷³ <http://www.milliyet.com/2003/01/18/guncel/agun.html>

⁷⁴ <http://www.hurriyetim.com.tr/yazarlar/yazar/0..authorid~91@sid~9@tarikh~2005-01-06-m@nvid~520214.00.asp>

⁷⁵ <http://www.radikal.com.tr/haber.php?haberno=161769>

第3章 宗教・思想との関連性

1. 概要

2章であげた、財閥の所有する新聞・テレビ・ラジオにおいても、もちろんそれぞれ独自の報道の姿勢や特色を持っている。しかし本章では、財閥など企業とはあまり関係がなく経済的な位置づけはできないものの、トルコ社会の中で一般に宗教・思想を前面に出しているという位置・印象にあるメディアを取り上げて調べたいと思う。

元新聞記者で出版史等の研究者であるトプズ氏は「保守派・イスラーム的な出版物」という項目の中で、以下の出版物をあげている (Topuz:411)。右側は同氏が述べる各紙の思想的分類だ。

【新聞】

ザマン紙 (Zaman)	フェトウフツラージュ(Fethullahçı)
テュルキエ紙 (Türkiye)	ウシュクチュ (Işıkçı)
イエニ・シャファック紙 (Yeni Şafak)	AKP
ヴァキット紙 (Vakit)	原理主義(Köktendinci)
ミッリー・ガゼテ紙 (Milli Gazete)	至福党(Saadet Partisi)
イエニ・アスヤ紙 (Yeni Asya)	ヌルジュ (Nurcu)
イエニ・メサージ紙 (Yeni Mesaj)	ハイダル・バシュ派 (Haydar Baş)
イエニ・チャー紙 (Yeni Çağ)	民族主義者行動党 (MHP)
オルタ・ドウ紙 (Orta Doğu)	民族主義者行動党 (MHP)

また同氏はイスラーム的傾向のあるテレビ局として、カナル7 (Kanal7)、サマンヨル (Samanlyolu)、メサージ TV (Mesaj TV)、ウシュク TV の4局をあげている。またニュースを配信する情報通信社のなかではイフラス情報通信 (İhlas Haber Ajansı) とジハン情報通信 (Cihan Haber Ajansı) があると述べている。

以下項目では宗教的・思想的観点から特に特徴があると思われるメディアのうち、2002年11月総選挙に関連するいくつかを紹介したいと思う。

2. イフラス財閥 (İhlas Holding)

イフラス財閥の所有者はエンヴェル・オレン (Enver Ören)。持ち株会社イフラス・ホールディング (İhlas Holding A.Ş.) を頂点として2004年の時点では、メディア、建築、流通、生産、病院などの施設運営、保険などの部門に進出している。1939年にデニズリで生まれた同氏は1970年4月22日に、保守的イスラーム路線で知られる⁷⁶テュルキエ紙 (Türkiye Gazetesi) を創刊したことを始めに、1990年にはイフラス孤児施設 (İhlas Yuva Evleri) をつくり建築業界へと進出し1991年4月22日にイスタンブールのシシリにあるテュルキエ病院

⁷⁶ Topuz.p332

(Türkiye Hastanesi)を開業、他に3ツ星ではあるが温泉施設付バカンス用施設のサカルヤにあるクズルックホテル(2000年完成)、イスタンブールからも程近いアルムトル郡のアルムトル・ターティル・キョイ(2004年完成)などがある。

飲料メーカーのクリルタル・コーラ飲料産業販売社(Kristal Kola ve Meşubat San. ve Tic. A.Ş.)は1994年には国内製品であるクリスタル・コーラの販売を開始した。

一方、メディア部門の持ち株会社はイフラス放送ホールディング(Ihlas Yayın Holding)であるが、イフラス財閥メディア部門をまとめるため、2003年7月10日に設立された。傘下企業として、1993年に放送を開始した民放テレビTGRTチャンネルとラジオTGRT FMの Huzur Radyo TV.A.Ş.、ケーブル・衛星テレビのTGRTニューステレビ社(TGRT Haber TV A.Ş.)、テュルキエ紙を出版するイフラス新聞社(Ihlas Gazetecilik A.Ş.)、ニュース配信のイフラス情報通信社(Ihlas Haber Ajansı A.Ş.; İHA)、雑誌出版のİletişim Magazin Gazt.Tic. A.Ş.、インターネットダイヤルアップ接続プロバイダなどのサービスを行うイフラス・ネット(Ihlas.net A.Ş.)がある。

また、新聞や雑誌の集配・販売は2005年現在ドアン財閥傘下のヤイサットを利用している。雑誌出版のİletişim Magazin Gazt.Tic. A.Ş.が出版する雑誌は以下の12冊で、Yemek Zevki, Türkiye Çocuk, Konfeksiyon&Teknik, Matbaa&Teknik, Medical&Teknik, Food Hi-Tek, Yapı Malzeme, Textile Exports, Fashion Exports, Automotive Exports, Turkey Economic Newspaper, Construction World。

だが2001年2月10日には銀行調整監視機構によって傘下企業イフラス・フィナンスが経営難と資金をグループ傘下の他企業に移管させていたことを理由に営業許可を取り消された。2000年11月の経済危機以降経営不振に陥った同社から、顧客は預金の引き出しを要求していたが、最後の1週間に至っては全く預金の引き出しができず、営業取り消しとなった⁷⁷。

イフラス放送ホールディングは2004年にはテレビTGRTのTGRT Haber TV社の株式の56.5%、テュルキエ紙のイフラス新聞社の20.11%、イフラス情報通信社の50%、衛星放送TGRTニューステレビ社(TGRT Dijital TV A.Ş.)の95%、TGRTデジタルテレビサービス社の95%を所有している⁷⁸が、2005年8月5日に、テレビTGRTのTGRT Haber TV社の株式の56.5%の同ホールディングの所有分を今後売却することを明らかにした。またミリエット紙によればイフラス・ホールディング会長のエンヴェル・オレンは2005年7月27日に自身の所有するイフラス・ホールディングの27%の株式のうち4892万YTL相当分を一年以内に売却するための申請を資本市場委員会(SPK)に申請したという。こ

⁷⁷ <http://www.milliyet.com.tr/2001/02/11/ekonomi/aeko.html>

⁷⁸ İhlas Holding Faaliyet Raporu 2004 p.32

の売却が実現すればオレン氏の所有する株式は全体の 11.57%となるということになる⁷⁹。

また、2005年8月21日にはグループ傘下のクリスタル・コーラ社を含む食料・飲料部門のすべてが電機メーカー「サニー (Sunny)」で知られるアトマジヤ電器に1億2900万YTLで売却され、⁸⁰イフラス・ホールディングは大幅に縮小した。

[メディア部門会社一覧]

İhlas Yayın Holding A.Ş.

- Huzur Radyo TV A.Ş. (TGRT)
- TGRT Haber TV A.Ş. (TGRT Haber TV)
- TGRT Dijital TV A.Ş.
- İhlas Gazetecilik A.Ş. (テュルキエ紙)
- İhlas Haber Ajansı A.Ş. (ニュース配信)
- İletişim Magazin Gazt. Tic. A.Ş. (雑誌)
- İhlas Net A.Ş. (インターネット)
- Repaş Medya Rek. Prod.Bas. Hiz. A.Ş.
- Promaş Profesyonel Medya Rekl.ve Film Paz. A.Ş.
- İhlas Reklam Ajans Hizmetleri Ltd.Şti.

3. フェトフッラー・ギュレン(Fethullah Gülen)主義 (フェトフッラージュ)

フェトフッラー・ギュレンの信奉者集団のことをフェトフッラージュという⁸¹が、フェトフッラージュは1986年11月3日に『ザマン』紙を買収した。他に、雑誌『スズントウ (Sızıntı)』や『エコロジー (Ekoloji)』、宗教雑誌『イエニ・ウミット (Yeni Ümit)』、週刊雑誌『アクション (Aksiyon)』、英語で出版されている『ファウンテン (The fountain)』、テレビではサマンヨル TV (Samanolu TV)、ブルチFM (Burç FM) がある⁸²。

また、99年6月のヒュリエット紙の報道によれば、ギュレンが会長を務めるヌル会 (Nur Cemaati) が関連する組織は、教育部門では、トルコのファーティフ大学、アゼルバイジャンのカフカス大学、カザキスタンのファーティフ大学、アンカラのファーティフ大学に所属するアフメット・オルス病院 (Ahmet Örs Hastanesi)、約200校以上在る私立校、擁護施設、約460校の予備校、約500棟の学生寮、カナダ、ナイジェリアを始め54カ国で約

⁷⁹ <http://www.milliyet.com/2005/08/06/ekonomi/eko01.html>

⁸⁰ <http://www.milliyet.com/2005/10/22/ekonomi/axeko01.html>

⁸¹ 中田考、「トルコのイスラーム主義「ヌルジュ」運動——フェトフッラージュを中心に」『中東研究』No.461, pp.2-21, 2000/4

⁸² M.Hakan Yavuz, John L. Esposito, *Laik Devlet ve Fethullah Gülen Hareketi*, Gelenek Yayıncılık, 2003, istanbul. pp.76

250校の私立校、21棟の学生寮があるという。また、同紙によれば会は、1996年設立のアシヤ・フィナンス (Asya Finans)、1993年10月4日放送開始のサマンヨルTV、予備校フェン・デルスハーネ (FEM Dershane)、ザマン新聞をはじめとする約500社から援助を受けているということだ。またウシユク保険 (Işık Sigorta)、チャルック銀行などを所有するチャルック・グループ (Çalık grubu)、1972年設立のイズミルにある、アクヤズル財団 (Akyazılı Vakfi) などとも関連性が指摘されている。同紙はメディア部門では、ブルチFM、メルトFM (MertFM) をはじめとする25局、サマンヨルTV、『ザマン』、『アクション』を出版するフェザー新聞社 (Feza Gazetecilik A.Ş.) をあげている⁸³。サマンヨルTVではフェトフッラー・ギュレンのルポタージュや道徳番組がよく放映されている。また、『ザマン』、『アクション』、サマンヨルTVの情報源はジハン情報通信である⁸⁴。『スズントウ』、『イエニ・ウミット』、『ヤームル (Yağmur)』、『ファウンテン』などの雑誌はカイナック文化出版グループ (Kaynak Kültür Yayın Grubu) 傘下のニル出版 (Nil Yayınları) から出版されている⁸⁵が、カイナック文化出版グループには他にもウシユク出版、デフネ出版など17社の出版社があり、宗教書などを出版している。

4. アルバイラック・グループ (Albayrak Şirketler Grubu)

CEOのアフメット・アルバイラック (Ahmet Albayrak) を中心に、アルバイラック家により経営されていると思われるが経営陣のメンバーなどあまり公に発表されていないため不明である。

同グループは現CEOのアフメット・アルバイラックにより1950年に始められた建築業を中心に、1980年代には長距離バス運営で大きく成長した。イスタンブールのメトロなどの建築、縫製、製紙、不動産、長距離バスといった部門に進出している。また、メディア部門においては、1995年よりイエニ・シャファック紙 (Yeni Şafak) を創刊している。

このアルバイラック家と現在AKPのエルドアン首相との癒着関係は今までに何度も指摘されており、アルバイラック一族が落札した競売入札のいくつかは汚職によるものではないかとの疑いがもたれている。なお、エルドアン首相の長女エスラ・エルドアン (Esra Erdoğan) と新聞記者のサドゥック・アルバイラック (Sadık Albayrak) の息子ベラト・アルバイラック (Berat Albayrak) は2004年7月11日に結婚している。

2000年の『ザマン』紙でアフメットの第6子ムスタファ・アルバイラック (Mustafa Albayrak) のインタビューが掲載されている。インタビューによると、父アフメット・アルバイラックは1970年代には建築業を行っていたが、1977年にはやめ、ムスタファ・ア

⁸³ <http://arsiv.hurriyetim.com.tr/hur/turk/99/06/22/gundem/02gun.htm>

⁸⁴ <http://www.cihan.com.tr/>

⁸⁵ <http://kulturyayinlari.com/index.html>

ルバイラックは 1979 年には長距離バス会社ウルソイ (Ulusoy) で運転手をしていた。80 年代には市内でマイクロバスでの顧客移送を始めて徐々に規模を拡大していった。89 年には約 4000 台ものバスを所有し当時市場最大の規模を有していたという。イスタンブール市との関係は 1983 年からで 90 年代初頭からはイスタンブール大学、チャパ大医学部、ベイコズ国営病院等で清掃業をおこないその後民営化された市内のゴミ収集業を請け負っている⁸⁶。

エルドアン首相がイスタンブール市長となった 1994 年にはアクバイラックの会社はイスタンブール市のゴミ移送を請けおっている。またその他にも美徳党議員が市長を務めるギュンギョレン市、キャウトハーネ市でゴミ収集を行っていたという。またキャウトハーネ郡のゴミ収集は入札なしでアルバイラック社に渡っていたという⁸⁷。

また 1989 年以降再度建築業に進出していた同社はイスタンブール市の一大事業であったタクシム-4.レVENT間のメトロ建築をフランスの Cegelec 社と共同で入札して獲得している⁸⁸。

1999 年 4 月には「アクビル・スキャンダル」という汚職事件が起きている。

イスタンブール市の交通機関ではアクビルという、現在の日本で言えばイオカードやスイカのようなものが使われているが、当時のシステムでは実際に支払われた運賃が記録されていなかったため、その売上金である 41 兆リラの不明金が市と取引する何社かに分配されていたという疑惑が、1999 年 4 月 13 日に共和人民党 (CHP) 議員メフメット・ボリュック (Mehmet Bölük) によって持ち出された。その際アクバイラックの名前もあがり、アフメット・アルバイラックも一時監察下に置かれたが解放された⁸⁹。

『サバフ』紙によれば、同社がイスタンブール市から請け負ったプロジェクトは他に、車のレンタル、市バスの清掃業、イスタンブール水道のメーター管理 (入札なし)、住宅建設、パンの配達、掲示板のレンタルなどがある⁹⁰。

アルバイラック家は父アフメットの下に子供が 7 人おり、2000 年の時点ではそのうちの一人である女子を除いて 6 人の男子が経営に関わっているという。キャズム・アルバイラック (Kazım Albayrak) が自動車部門、テキスタイル部門が第 5 子ムザッフェル (Muzaffer)、金融と建築がムスタファ、ゴミ収集と清掃業がバイラム (Bayram)、アフメット (Ahmet) とヌリ (Nuri) が全体的な経営に関わっているということだが、2005 年にはヌリが 5 人兄弟だと言っていて現在の状況は不明だ⁹¹。

結局 1998 年に行われた 2 つの入札についての汚職疑惑は 2003 年 1 月の判決でアルバイ

⁸⁶ ザマン “Albayraklar İstanbul’ı taşıyor,” *Zaman*, 10.07.2000

⁸⁷ “Zehir zemberek rapor,” *Sabah*, 04.09.2001

⁸⁸ ザマン 同掲

⁸⁹ ヒュリエット “Akbiil Skandal büyüyor” *Hürriyet*, 28.04.1999

⁹⁰ サバフ紙 “Zehir zemberek rapor,” *Sabah*, 14.09.2001

⁹¹ *Yeni para*, 2005/ 24

ラック旅行社 (Albayrak Turizm A.Ş) の取締役会会長ムスタファ・アルバイラックとキャーザム、ムザッフェルの兄弟にそれぞれ2ヶ月27日の懲役と88ミリオン725ビンの罰金が与えられ、エルドアン首相は無罪となった⁹²。

また2003年7月には民営化されたセカ製紙工場 (SEKA Kağıt Fabrikası) が公共の福祉と民営化の目的に相応でないことからブルサ地方裁判所により営業が停止された⁹³。

しかしながらアルバイラック家は上記のように美徳党の時代からエルドアン首相と特に親しく、所有しているイエニ・シャファック紙もAKPよりだとされている。

5. ジュムフリエット紙

1924年5月7日ユヌス・ナーディ (Yunus Nadi) によって創刊された『ジュムフリエット』の名前をつけたのはムスタファ・ケマル・アタテュルクだという。

1991年8月20日ナディル・ナーディ (Nadir Nadi) が死亡したことで、新聞内で政治路線をめぐって記者達が対立し、1991年には主要な記者の辞職や、一部の記者たちが辞職後購読をボイコットするなどの事件が起こった。売上部数は減少し、1992年10月22日、出版元のジュムフリエット新聞社 (Cumhuriyet Matbaacılık ve Gazetecilik TAŞ) の倒産が裁判所により決定された。元社員によって現在のイエニギン情報通信出版 (Yeni Gün Haber Ajans Basın ve Yayıncılık AŞ) が設立され、1992年10月14日には『ジュムフリエット』紙は再刊された (Sığnak : 68-69)。

2003年の時点の『ジュムフリエット』紙の所有はジュムフリエット財団 (Cumhuriyet Vakfi) で財団に属するイエニギン・ホールディングとイエニギン情報通信出版の株式分配は一説によるとジネル・グループのトゥルガイ・ジネルが40%、メフメット・エミン・カラメフメットが40%ということだが実際はわかっていない (Topuz:346)。財団と新聞社の代表は『ジュムフリエット』紙で現在「窓 (Pencere)」コラムを書いているイルハン・セルチュク (İlhan Selçuk)。

⁹² “Erdoğan'a iki günde iki davadan beraat,” *Vatan*, 23.01.2003)

⁹³ Coşkun Yaman, “SEKA’yi iade etmiyorlar,” *Cumhuriyet*, 2003年11月6日

4章 全体としてのメディアの構図

補足的になるが本章では、2章、3章で書いた報道機関を少し俯瞰的に見てみる。

1. 企業規模

・イスタンブル納税者番付

イスタンブル会計局は、毎年4月に納税者番付100位を公表している。アイドゥン・ドアンは1994年以来2005年までずっとイスタンブル内で納税者番付個人一位、そのうち2001年まではトルコ全国でも一位である⁹⁴。『ミリエツト』紙は毎年4月になるとこのニュースを報じている。ちなみに2005年3月に公開された納税者番付個人部門⁹⁵で、メディア所有者はアイドゥン・ドアン（1位）、トゥルガイ・ジネル（14位）⁹⁶。

・2005年『フォーブズ』誌 “The Forbes Global 2000”（2005年3月31日版）

566位	Türkiye İş Bankası
666位	Sabancı Group
<u>746位</u>	<u>Yapı ve Kredi</u>
883位	Koç Group
<u>1,133位</u>	<u>Türkiye Garanti Bankası</u>
<u>1,143位</u>	<u>Turkcell</u>
<u>1,299位</u>	<u>Petrol Ofisi</u>
1,304位	Tüpras-Türkiye Petrol
<u>1,312位</u>	<u>Doğan Holding</u>
1,557位	Finansbank
1,813位	Enka
1,943位	Arcelik

表3

Ann C. Anderson, Brian Zajac; Researchers: John J. Ray, Shlomo Reifman, Samantha N. Wong; Edited by Scott DeCarlo, <http://www.forbes.com/2005/03/30/05f2000land.html> よりダウンロード、世界トップ2000企業の中のトルコ企業を抽出して表作成。

⁹⁴ “Aydın Doğan, İstanbul'da geleneksel rekortmen...,” Milliyet, 06.04.2005

⁹⁵ ただし、中には名前を公開していない人もいる。

⁹⁶ http://www.ivdb.gov.tr/duyurulan/rekortmenler/2004/gv_ilk100.htm

表3 2004年イスタンブル工業商会議所 (İSO) 企業トップ500

メディア部門

2004	2003	会社名	場所
72	66	Hürriyet Gazetecilik ve Matbaacılık A.Ş. (ドアン)	İSTANBUL
121	129	MERKEZ GAZETE DERGİ BASIM YAYINCILIK SANAYİ VE TİCARET A.Ş. (パーク)	İSTANBUL
136	334	DOĞAN GAZETECİLİK A.Ş. (ドアン)	İSTANBUL
395	465	FEZA GAZETECİLİK A.Ş. (フェトフッラージュ)	İSTANBUL

メディア以外

98	71	PARK TERMİK ELEKTRİK SAN.VE TİC.A.Ş. (パーク)	ANKARA
180	142	PETROL OFİSİ A.Ş. (ドアン)	İSTANBUL
212	173	PARK TEKNİK ELEKTRİK MADENCİLİK TURİZM SAN. VE TİC. A.Ş. (パーク)	ANKARA
357	395	TANSAŞ PERAKENDE MAĞAZACILIK TİCARET A.Ş. (ドウシュ)	EGE-İZMİR

(出所) イスタンブル工業商会議所ホームページより筆者抽出

(http://www.iso.org.tr/500buyuk_Default.asp?syf=1&siralama=0) 12月30日ダウンロード

2. 販売会社での提携

1959年9月4日トルコで初めての新聞集配販売会社 GAMEDA (Gazete Dağıtım Ltd. Şti.)が『テルジュマン』『ミリエット』『ジユムフリエット』『イエニ・サバフ』『ドゥンヤ』紙によって創設されたが同社は1992年に活動停止、1992年9月24日『ミリエット』『テュルキエ』紙の提携で ヤイスット (YAYSAT Yayın Satış Pazarlama ve Dağıtım A.Ş.) が創設された。また『サバフ』紙は初めは GAMEDA と提携していたもののその後、まだドアングループに入っていなかったヒュリエット・グループとの連携で、総合出版物流通 (BBD) を創設した。アイドゥン・ドアンがヒュリエットを買収した後は『ヒュリエット』紙は BBD を離れてヤイスットによる集配に入った。1996年5月にはヤイスットと BBD が合併しビルヤイ (Birleşik Yayın Dağıtım A.Ş.) となった。

2001年5月27日にはヤイスット (Yaysat A.Ş.) , ドアン放送出版ホールディング, ヒュリエット出版 (Hürriyet gazetecilik ve matbaacılık A.Ş.) ,ミリエット新聞社 (Milliyet gazetecilik A.Ş.) ,シムゲ出版 (Simge yayıncılık A.Ş.) の提携でドアン集配流通社 (Doğan Dağıtım ve Pazarlama A.Ş.) がつくられ、同社は販売ではなく、流通と金融面での業務を担うことと

なる⁹⁷。

だがディンチ・ビルギンのメディア財閥の崩壊とともに、2002年9月2日にはパーク財閥傘下で新聞・雑誌の集配販売を行うMDP社が創設されており、MDP社の創設と同時に、それまでヤイサットにより販売されていた、『アクシャム』、『ギュネシュ』、『タクヴィム』、『フォトマッチ』、『サバフ』、『ジウムフリエット』のチュクロヴァ財閥・メディア財閥傘下の新聞の集配はMDPに移った。

2005年12月現在ヤイサットに集配される新聞：⁹⁸

Bizim Anadolu Gazetesi (0.10)

Bizim Gazete (0.25)

Dünya (0.65)

Efsane Fotospor (0.25)

Fanatik (0.25)

Forum Diplomatik (0.50)

Gazete Avrupa (0.25)

Gazete 34 (0.10)

Gözcü (0.20)

Günlük Evrensel (0.50)

Hür Ses (0.10)

Hürriyet (0.35)

Hüryol Gazetesi (0.20)

Karadenizden Günebakış (0.40)

Milli Gazete (0.40)

Milliyet (0.25)

Okey (0.20)

Ortadoğu (0.30)

Posta (0.25)

Radikal (0.40)

Referans Gazetesi (0.55)

Sınav Sonuç Gazetesi (2)

Şok Gazetesi (0.20)

Turkish Daily News (1.25)

Türkiye (0.30)

⁹⁷ <http://www.yaysat.com.tr/yaysat/kurumsal/index.asp>

⁹⁸ カッコ内は値段 (YTL 単位)

Vatan (0.25)

Yeni Asya Gazetesi (0.40)

Yeni Mesaj (0.30)

Zaman (0.35)

2005年12月現在MDPによって販売される新聞⁹⁹：

Anadoluda Vakit

Akşam

Anayurt

Birgün

Bugün

Bulvar

Bursa Olay

Cumhuriyet

Dokuz Sütun

Günboyu

Güneş

Halka Olaylara. Tercüman

New Anatolian

Önce Vatan

Pas Fotomaç

Sabah

Star

Takvim

Ülkede Özgür Gündem

Yarış Gazetesi

Yeni Asır

Yeni Şafak

Yeni Tan

Yeni Çağ

⁹⁹ <http://www.mdp.com.tr/tr/products/gazete.asp>

5章 選挙との関係

1. 2002年総選挙前の状況

2002年総選挙は、5月4日に以前から体調不良が懸念されていた民主左派党(DSP)のエジェビット首相が入院したことで、当時の連立政権による政策遂行に疑問が見られるようになったことで持ち上がった。公務遂行に困難な状況であるにも関わらず、エジェビット首相が辞任を拒否したことで7月8日には民主左派党(DSP)のオズカン副首相が閣僚を辞任、離党することを発表し、連立与党第一党の民主左派党は分裂した。同時にタライ文化相、オナル国務相、ゲミジ国務相、ユルマズ国務相、ボスタングェオウル国家教育相らが辞任・離党し、10日の時点でDSPの国会議席数は128議席から94議席へ減少し、第2党に転落。11日にはエジェビット首相の後継者と目されていた民主左派党(DSP)のジェム外相が閣僚を辞任し89議席、12日には44名が離党して84議席、野党の正道党の85議席を下回って第三党に転落した。

7月9日には民族主義者行動党(MHP)党首のバフチェリ副首相により、正式ではないものの、「閣僚会議で9月に臨時国会を行い、11月3日の総選挙に向けた準備を行うことで合意した」と発言し、この時点で11月3日という日程を口に出していた。

DSP離党者は7月22日にジェム前外相を党首に新トルコ党(Yeni Türkiye Partisi)を結成する一方、続投が困難となったエジェビット政権は7月31日に臨時国会を召集し、2004年4月に予定されていた総選挙を、2002年11月3日に繰上げ実施することを決定した。

ところが得票率10%を越えられそうもない新トルコ党、祖国党、至福党は総選挙の延期を訴え、10月8日の臨時国会召集を求めたため、選挙肯定派で選挙準備のため国会休会を要求するDYP, AKP, 民主左派党(DSP)、MHPと10月1日に投票を行った。DYP、AKPは党議拘束をかけ、結果選挙肯定派が191票、延期派が170票で正式に11月3日に決定した。

11月3日に行われた繰上げ総選挙の結果、親イスラーム政党のAKPが、得票率34.28%で363議席を獲得し、単独政権を築くことになった。AKP以外に10%の票を得て、国会入りしたのは中道左派の共和人民党(CHP)のみで、19.39%の得票で178議であった。あとの9議席は無所属議員だった。

2. 選挙前報道

(1) 選挙報道に関する法律

選挙に関する報道を規制する法律のうち、重要かと思われるものをいくつか紹介する。

(a) 選挙法 (Seçimlerin Temel Hükümleri ve Seçmen Kütükleri Hakkında Kanun ; 法番号298号) の1995年に改正された61条追加条項では「高等選挙委員会(YSK)の発表する選挙活動開始の日付以降は出版・言葉・視覚的出版・報道機関を利用しての世論調査、アンケート、

予測、電話での国民投票などの名目で政党・候補に味方、あるいは敵対するもしくは票を左右するような報道は禁止する¹⁰⁰。」とある。2002年総選挙の際には「高等選挙委員会の発表する選挙活動開始日」とは8月7日であった。この日付は、8月6日に24838号の官報にて高等選挙委員会により発表された¹⁰¹。よって8月7日以降は上記の298号選挙法が適用され、アンケートや世論調査などの選挙報道の規制が行われたことになる。

(b) 第298号52条：投票日の7日前から前日の18時までラジオ・テレビで政見放送の許可。それぞれ約10分ずつの放送で全国放送されること、TPTとYSKにより中立かつ公正な放送の規定。民間放送についても基本はTRTに準じ監視がYSKと県選挙委員会によってされることが記載されている。この規定に外れた場合は151/2条により6ヵ月以上一年未満の刑もしくは罰金となる。投票日前日の18時以降に宣伝となる放送を行った場合、3ヶ月から6ヶ月の刑が課される。

(c) 第298法149/A条:55/A条とYSKの規定に反して放送した場合民間ラジオ・テレビ局に対し5日から15日までの放送禁止、地方局については3日から7日までの放送禁止が、全国放送局にはYSKから、地方局には郡選挙委員会から課される。郡選挙委員会の決定にはYSKから異議を出すことが出来るがYSKの決定は覆すことや裁判所に訴えることはできない。

(2) 各紙の報道

2002年11月の選挙前の報道、特に10月にどのような報道がされていたかを見てみる。2, 3, 4章で述べてきたグループ分けにしたがって検証していきたいところだが、残念ながら、『スター』、『ジウムフリエット』などはホームページの制約上見ることはできなかった。

2002年4月2日

『ミリエット』 “Uzanlar’a hukuk darbesi”

ウザン・グループ傘下の日刊紙スターがアイドゥン・ドアンについて「企業家ではなく反乱扇動家だ」と書いたことに、アンカラ裁判所はウザン側に名誉毀損で罰金275億TLの有罪判決を下した。

¹⁰⁰ Seçimlerin Temel Hükümleri ve Seçmen Kütükleri Hakkında Kanun (Ek fıkra: 4125 - 27.10.1995)

¹⁰¹ Resmi Gazete, Sayısı 24838, Tarihi 06.08.2002, kararı no.414:

“Milletvekili XXII nci Dönem Genel Seçiminin Başlangıç Tarihi ve Aday Olacak Kamu Görevlilerinin İstifa Tarihi ile Diğer Seçim İşlerine Dair Yüksek Seçim Kurulu Kararı” (<http://rega.basbakanlik.gov.tr/>)

2002年8月18日

『サバフ』 “Yatta siyasi tatil”

アイドゥン・ドアン、エルトゥールル・オズキョクと DYP 党首タンス・チルレル (Tansu Çiller) の夫オゼル・チルレル (Özer Çiller) がマルマリスからロードス島などを一緒にクルージングした。

2002年8月18日

『イエニ・シャファック』 “Rodos'un yolları taşlı”

アイドゥン・ドアンとオゼル・チルレルのクルージングはチルレルを説得して ANAP と連立させるための中道右派まとめの工作ではないか

2002年8月21日

『ヒュリエット』 “Uzanlar siyasete rüşvetle başladı (ウザン家は政治でも賄賂を始めた)”¹⁰²
再生党(YDP)のギュゼル元党首は、14人の黨員とともに同党から離党。ギュゼル元党首は YDP の黨員たちが賄賂をもらって GP に併合されたとして批判し、金銭だけでなく、黨員達が高価な携帯電話を贈られたことも主張している。

2002年9月7日

『サバフ』 “CEM UZAN partisi anketlerin süprizi Bir reklam mucizesi (ジェム・ウザンの党がアンケートで驚きの結果 宣伝で奇跡)”

GP がウザン財閥傘下の TV 局、新聞などを利用し、イブラヒム・タトゥルセスなど有名歌手らのコンサートを政治的な活動に利用して DSP、新トルコ党、ANAP 以上の支持率を集めている。

2002年9月9日

『ミリエット』 “Erdoğan'dan 'batık zirvesi'ne savunma”¹⁰³

AKP エルドアン党首が倒産した銀行のトブラックバンクのハリス・トブラック、ケントバンクのムスタファ・スゼル、パムックバンク (チュクロヴァ財閥) のメフメット・エミン・カラメフメットと密会していた。

9月30日

¹⁰² “Uzanlar siyasete rüşvetle başladı” *Hürriyet*, 21.08.2002

¹⁰³ “Erdoğan'dan 'batık zirvesi'ne savunma” *Milliyet*, 19.10.2002

『ミリエット』 Derya Sazak, KONDA'nın 3 Kasım tahmini

KONDAによる最新の世論調査では、7月の時点でAKPの支持率は約30%、CHPが約20%となっており、10%を超えることの出来る政党はウザン財閥のジェム・ウザン党首のGPだけであるという。GPの上昇により、MHPとDYPは10%の枠外に押し出されようとしている。

2002年10月1日

『ミリエット』 Derya Sazak, “Genç Parti olayı”¹⁰⁴ :

青年党（GP）は10%条項を超える三つ目の政党として注意を引いている。たった2ヶ月で0から10%へどうやってあがるのか。経済危機の被害を受けた国民の怒りの反応として、票は野党のAKP、CHP、GPの3党に集まると見られている。

AKPはエルドアンの開放的な雰囲気、CHPはデルヴィシユの入党で加速、「ジェム・ウザンの青年党」というと大学の論文のテーマになりそうなほどの「政治的プロパガンダ」で票を集めている。（プリンストン大教授の文章を引用して批判。）GPのためにプロの広告屋が働いており「ジェム・ウザンのイメージ」を何百万人もの有権者に広めている。KONDAの調査では7月—9月間のキャンペーンが郊外の生活の抜き差しならない民衆と、現在の主導者・「体制」に反発を覚える失業・貧困層、初めて投票する若年層に影響を与えたとわかった。MHPを筆頭にDYP、ANAP、AKPからの票すべりが問題となっている。

『ヒュリエット』 Oya Armutçu, “YSK'dan TV'lere seçim incelemesi”

ジェム・ウザンのGPについてRTÜKからYSKに、選挙機会の平等違反を訴える40ページのレポートが提出された。

『アクシャム』 Vecdi Tamer, Türkiye AKP'ye mi layık? :

第一党と憶測されるAKPと党首は改革を実行できる能力はあるのか。カリスマと雄弁さのほかに何があるのか。十分ではない：「我々を信じよ、債務を減らし、貧困を生まない」というだけでは十分でない。貧困対策をし、インフレを減らすというだけでは他政党と同じである。MNP, MSP, RP, SPと変わりはなく、ただ「モダン」に見えるだけだ。

10月1日

『イエニ・シャファック』 Cengiz Çandar, “1 Ekim'i 4 Kasım'dan görmek...”¹⁰⁵

KONDAの調査では、7月時点でAKPが21.8%、CHPが8.7%、8月末にはAKPが24.6%、ケマル・デルヴィシユがCHPに移ったためCHPが14.3%、MHPが10%以下に落ち込み、

¹⁰⁴ “Genç Parti olayı” Milliyet, 01. 10.2002

¹⁰⁵ “1 Ekim'i 4 Kasım'dan görmek...” YeniŞafak,01.10.2002

DYP が 8.8%あたり、GP は 5%台を上っている。

9 月末—エルドアンの出馬禁止後—AKP は 30%台、CHP は 20%あたり、GP は 10%を超えるが DYP、MHP は下降。YTP は選挙まで果たして存在しているかどうか、ANAP はトルコの国民性から言って拒絶されそうな路線を歩んでいる、など

『ミリエット』 Barkın Şık, “Savurgan Derviş!”

CHP のケマル・デルヴィシユはヒルトンのスイートに泊まっていて 45 日分の料金は一万六千ドル

『サバフ』 İhsan DEMİR, “Bu kadarı da olmaz artık!Skandal adaya Meclis garantisi”

殺人罪で指名手配され、読み書きのできないことがわかったジズレ市長のキャーミル・アタウ (Kamil Atağ) DYP 議員はヴァンで 1978 年に 2 人の羊飼いを殺したかどで指名手配されていたが、苗字を Atak から Atağ に変えて逃亡していた。

10 月 2 日 選挙延期案は取消

『ヒュリエット』 Fatih ALTAYLI, “Cem Uzan MHP'den çalıyor (ジェム・ウザンは MHP から盗んでいる)”

『イエニ・シャファック』

一面見出し：“Sandık kurtuldu (危ないところだった)”

“AK Parti fire vermedi” :MHP.DYP DSP では造反が出たが AKP ではゼロ

“Erdoğan'ın yasağı AB'ye engel (エルドアンの禁止は EU への障害)”

: EU 拡大担当官がエルドアンの選挙件剥奪を批判

『ミリエット』 “Kemal Derviş ofisini boşaltıyor”

デルヴィシユはアンカラのガージオスマンパシヤのオフィスを空にする。約 3 ヶ月賃貸料を払っていなかったとする報道に対し反論。

10 月 3 日

『ミリエット』 “YSK, Star'ı 6 gün kapattı”¹⁰⁶

高等選挙管理委員会は、青年党(GP)のジェム・ウザン党首の所有するテレビ局 3 局を「公正な選挙運動に抵触するとして」6 日間放映停止とすることを決定した。

2002 年 10 月にウザン一族のハーカン・ウザンと助手数名がドアン財閥のアイドゥン・ドアンの電話を盗聴し、その録音を放送すると恐喝したことで裁判が開かれていたが、2004 年 1 月には 18 年以下の懲役刑の判決が出た。¹⁰⁷

¹⁰⁶ “YSK, Star'ı 6 gün kapattı” *Milliyet*, 03, 10, 2002

¹⁰⁷“Uzanve asistanına telefon dinleme davası” *Milliyet*, 2004 年 1 月 2 日 <http://www.milliyet.com/2004/01>

結論

2001年の銀行破たんは11月の金融危機を引き起こすきっかけにもなったが、新聞・テレビ・ラジオといったメディアの世界をもがらりと変えた。チュクロヴァ財閥、ルメリ財閥が銀行部門から崩れていったこと、ジェム・ウザンがメディア業界から政界に飛び込んだことで、政界の中でメディアの独占についての危機感が生まれ、それまでの、叩き叩かれ、持ちつ持たれつで発展していたメディアと政治の関係が崩れてきたともいえる。

2003年にはセゼル大統領をはじめとして、メディア独占の危険に対しての関連法の修正が呼びかけられ、また銀行調整監視機構により、メディア企業、政党、連合、地方自治体、年金基金、基金などの所有者は、銀行との合併および10%以上の株式保有が禁止される新銀行法案¹⁰⁸がだされたがセゼル大統領によって拒否された。またウザンのルメリ財閥崩壊後は、元ルメリ財閥傘下の企業を売却するために、外国資本による買収の場合の制限が撤廃される方向に進んでおり、今後メディア業界にも外国資本の流入が進む可能性もなくはない。

しかし、確かに2002年のチュクロヴァウザンードアンという三つ巴の構図はルメリ財閥の崩壊とともに確実に砕けたが、集配販売と世界的ランキングを見れば、結局のところ「所有者の名前」が変更されたにすぎない。集配販売部門ではアイドゥン・ドアンとトゥルガイ・ジネルの2人が完全に独占している状態だ。

また、ルメリ財閥の崩壊についても、ジェム・ウザンが政界に進出したタイミングと財閥崩壊の時期が合致しており、捜査についても、手が伸びたのは結局ルメリ財閥のみで他の腐敗捜査には全く着手されていないことを考えると、疑問が残る。政治的意図があったか、なかったかは別としても、エルドアン首相とジェム・ウザンは敵対していたし、それは2002年総選挙時のドアングループの報道の仕方を見てわかるように、当時手段を選ばず得票率を伸ばし、10%は超えないまでも7.5%の票を獲得したGPがドアングループにとっても脅威だったように他政党にとっても脅威であったことは確かだろう。

また5章の初めに書いた選挙法も、こうやってみるとあまり機能していないのではないだろうか。10月初頭にスターテレビグループは放送を止められているが、新聞などの紙上での報道は全く規制されていない。

/02/ekonomi/eko05.html)

“Her şeyimizi dinlemişler” *Milliyet*, 2003年10月9日(<http://www.milliyet.com/2003/10/09/siyaset/siy10.html>)

”Uzanlar’a hukuk darbesi” *Milliyet*, 2002年4月3日(<http://www.milliyet.com/2002/04/03/guncel/gun10.html>)

¹⁰⁸ 'Banka sahibi medya patronu olmamalı' *Sabah*, 20.12.2004

1/1147号 Banka Kartları ve Kredi Kartları Kanunu Tasarısı 未だ協議中

おわりに

元々このテーマは2年前に一度取り上げたものだったので、メディアというものを、今度はより詳しく総括的にという観点で書いたら深みにはまってしまいこんなことになってしまった。「はじめに」のように、権力の要因分析を目指すのであれば、もう少しわかりやすく、視聴率や売上部数の数値操作やラジオ・テレビ高等委員会や組合のことを書くべきだったかもしれない。

時間的な制限で、肝心の5章に時間をかけることができず、結果論文としてはまとまりのないものとなってしまったが、これまで調べてきたことをまとめることはできた。新聞を参考資料にする場合頭に入れておくべき背景は、一部ではあるがまとめられたのではないだろうか。今回はその背景が主流となってしまったが、もし機会があればその先の問題を、今度は考えていきたい。

【参考文献】

中田考、「トルコのイスラーム主義「ヌルジュ」運動——フェトフツラージュを中心に」『中東研究』No.461, pp.2-21, 2000/4

Kejanlıoğlu, Beyibin, *Türkiye'de Medyanın Dönüşümü*, İmge kitabevi, 2004.

Sağnak, Mehmet, *Medya-Politik (1983-1993 arasında medya-politikacı ilişkileri)*, Alfa yayınları, 2002.

Sönmez, Mustafa, *Filler ve Çimenler -Medya ve finans sektöründe Doğan/Anti-Doğan savaşı*, iletişim yayınları, İstanbul, 2003.

Tokgöz, Oya, *Temel Gazetecilik*, İmge Kitabevi, 5.baskı, 2003

Topuz, Hıfzı, *II.Mahmut'tan Holdinglere Türk Basın Tarihi*, Remzi Kitabevi, İstanbul, 2003.

Uzupeder, Banu, *Medyakronik -Hakiki örneklerle medya eleştirisi*, İstanbul Bilgi Üniversitesi Yayınları, İstanbul, 2003.

Yavuz, Hakan, and Esposito, John, *Laik Devlet ve Fethullah Gülen Hareketi*, Gelenek yayınları, 2003.